
IB -インフィニット・バカトリオ- 《無限の3バカ烈伝》

暮灘雪夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IB - インフィニット・バカトリオ - 『無限の3バカ烈伝』

【ISBN】

978-4-908338-1-1

【作者名】

暮灘雪夜

【あらすじ】

今日も激しい女尊男卑が吹き荒れるエス世界、…

しかし、そんな風潮どこ吹く風と、お気楽に過ごす者達がいたつ…。

人はその者達を【バカ】と呼んだつ…。

この物語は…

バカ故に世間の風潮を良しとせず…

バカ故に世界に風穴を開けた者達の…

血と汗と涙と戦いの記録であるつ…！

お約束ですが、嘘です（――）

え～、実はこのシリーズ、暮灘が現在休載中（泣）の【バカと努力
つ娘と四角形】という作品を現役で書いてる頃から大変お世話にな
つてゐ、【なるう】バカテス一次創作の大御所の御一人、ヒヨウガ
先生との連動企画だつたりします（；；一^A

いや～、ヒヨウガ先生が「ISでコラボ書く」と言ひなはるんで、
暮灘も便乗させてもらつたんですね

中身はタイトル通り、【IS】と【バカとテストと召喚獣】のコラ
ボ・ギャグとなつります

あつ、そつゝえば…

【バカテス・キャラ】

【HS世界】

という構造なので、基本的にHSの一次創作でバカテスキキャラは少
数登場（予定）ですよ。

こんな話ですが、どうかよろしくお願ひします m(—)m

追伸

GAU先生の、厚意により、先生のキャラが参戦する事になりました

【Episode00】第1話 "・バカがロケットでやつてくる・

皆様、初めまして（――）

よつて【HS×バカテス】といつ変則しそぎて寧ろ気持ちよくなつちゃったカオティックな世界へ

変則と変態を書くのが大好きな暮灘です m(――) m

さてさて、早速記念すべき第1話の内容は…

わわわわ、メイン・ヒロイൻ(…?)の登場です

いや、この表現が正しいのかなり謎ですが(笑)

そして、”彼女(?)”の回想から語りられる悲しい過去とは…?

様々な伏線と重要情報を無理矢理押し込み、いよいよ第1話スタートです

それは春

全ての始まりの時期

美しい桜が街を彩り、全てが輝いて見える季節…

そして、そんな穏やかな陽光が降り注ぐ空を切り裂くようて飛んでくるのは…

文部省

【巨大ニンジン】 つ！？

二ンジン（？）は、弾道飛行を描きながら、人気のない…とは言え
ない公園に”着弾”した…

そして

”
ばがんつ
！”

どうやら、全金属製の「エンジン」…呼称は”メタル・エンジン”にしておいた。

何やら、エンジンを題材にした童謡の Metal Version っぽいが、細かい事は気にしてはいけない。

とにかく、中から蹴り飛ばされるような勢いでメタル・エンジンの一部が開いた。

どうやらハッチになっていたそこから現れたのは…

「イテテ…【お姉ちゃん】も【東ちゃん】も酷いや。まさか大洋間弾道飛行で日本に戻つてくるとは思わなかつたよ…」

クリクリとどこか小動物を思わせる大きなハーベスト・ブラウンの瞳…

チエリー・ピンクの唇…

真っ白なりボンを不思議の国のアリスっぽく結び目が上に来るよう巻かれた、サラサラのハニー・ブロンドのロングヘア…

メタル・エンジンから現れたのは…

スコティッシュ・キルト・チェック柄のミニスカートとエンブレム入りのブレザーがよく似合ひ、

【問答無用の美少女！】

だった

ただし、生物学的な区分は、

”謎（笑）”

であったが…

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

明久 side -

皆様、はじめまして

ボク、”吉井明久”って言います

あれ？

なんかアチコチで誰かがズッコケた気が…

あつ、いきなりアメリカから口ケット・ニンジンで弾道飛行で飛ん
できて、防空迎撃網を交い潜りながら密入国（？）するなんて、非
常識な上に派手な登場してすみません（汗）

それに国防軍並びに戦略自衛隊の艦隊と、恒子潰して「めんなさい

(一)

で、でもスクランブルで飛んできたF-22Cを4機瞬殺したのは、ボクの意思じゃなくて、ロケット・エンジンの自動迎撃システムだからね？

だからって200発以上ミサイル飛ばしていくのは、やり過ぎかなあ～っとはやり過ぎだと思ひナビ…

(だから、ボクもつい本気で迎撃しちゃった訳で)

でも、本当に納税者の皆さんは今頃泣いてるんじゃないかな？
ミサイルも戦闘機も高いのに…

(でも、驚いたなあ～)

見かけはかなりアレだけど、このロケット・エンジンって大気圏内でアニメ“マクロス・プラス”に出てくる【「ーストX-9】みたいな性能があるとは思わなかつたよ。

(さすが、東ちゃんが『自信作だぴょん』って書いてただけの事はあるよお～)

でもそれでも、お姉ちゃんも東ちゃんも…

『アキちゃん。最近は航空運賃も燃料サーチャージ料もバカにできません』

『アキちゃんは、私とあーちゃんの可愛い可愛いモルモット（実験動物）、というかハムスター（愛玩動物）なんだから大人しく乗つてくれないと駄目だぴょん』

つて口ケット・ニンジンに押し込んで、リニア・カタパルトから射出するんだもん！

酷いや！

えつ？

状況は分かつたから経緯を話せ？

うーん…

どうから話そうか？

取り敢えず、ボクがアメリカにいた理由から話そうかな？

そう、あれは小学校を卒業したばかりの頃だから、もう3年前になるかな…

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

かいそうつ！

3年前…

” The Day of Destiny (D - Day・運命の日)

ボクはアメリカで研究職に就いてる姉の姉さんから送られて来た
手紙（？）”に固まっていた…

正確には、A4サイズの国際郵便封筒に入っていたのは…

【来なさい】

と大きく書かれた一枚の写真だった。

固まる理由は、シンプルな文面じゃなくてむしろ写真…

【裸白衣で寝転んで、脚の間を人差し指と中指を”くぱあ”と広げるカメラ目線の姉さん】

だつた。

当然のようごと、無修正だ…

勿論、ボクは何度も田をこすつて確認し直したけど、現実は何も変わらなくて…

他にも情報がないかつて写真を裏返してみると…

ありました（汗）

アキくんへ

アキくん、お元気ですか？

姉さんも写真で見て分かるとおつ肌の色艶も良しく、とても元気にしています。

（姉さん、多分頭の中は「元気じゃない」と思つるだ…）

実は今、姉さんは親友のウサギさんと共同研究をしています。

アキくんは確かゲームが好きで、得意でしたよね？

今、姉さんとウサギさんが開発してるとも、ウサギさんに言わせれば、

『ゲームをリアルにダウンロードしたみたいな、究極の体感ゲームみたいなんだぴょ〜ん』

という事なので、是非ともアキくんにもテスト・プレイヤーとして参加して欲しいのです。

（ウサギが開発したゲームって一体…？）

もし、来てくれないのなら…

姉さんは寂しくて悲しくて、思わず手が滑つて送つて写真の画像データをアキくんの関係先全てに、【弟に調教され性的な奴隸になつた哀れな姉、吉井怜です】というタイトルを付けて携帯と言わずパソコンと言わず無差別送信してしまいました。

「姉さん、すぐに行くからねっーー（泣）」

再起動を果たしたボクは気がつくとそう叫んでいた！

「で、でも姉さんって今どうしているんだり…？」

一昨年くらいまではマサチューセッツにいたはずだけど、そこから先は聞いて無かつたし…

というか、この封筒つて差出人も書いて無ければ、切手さえ貼つてないんだけど…？

（どうやって届いたんだろう？）

僕がアタフタしてると、何故か玄関先で僕が手紙を読むのを待つていてくれた親切な郵便屋さんが、何か兎型の手の平サイズの機械を出してポチッとな？

『やつほー アキちゃん元気かなあ？ この東さんの美声を聞いてるって事は元気だよね？ そうに決まつた』

聞き覚えのない声が機械から流れてくる。

「えーと… 何でピーダー？」

コクリと頷く大柄な郵便屋さん。

『唐突だけど、このメッセージを聞いた後、目の前のポストマンが正体見せるからそれに乗つておいで』 あつ、それとこのレコードは情報漏洩防止の為にメッセージ再生終了後に自動的に消去されるから 半径5mは跡形も無く吹き飛ぶよおー！ じゃあ、爆発10秒前』

「うわあーーっ！？ 早くそれを捨ててーー！」

すると郵便屋さんはオーバースローでぎゅ～ん！って投げた。

スッゴくいい肩してあるなあ。

なんか遠くで『おしおきだべー!』的なドクロ型のキノコ雲が上が
つてる気がするけど…

(気にしたら負けだよね? もつと...)

それよりも、

「君が変形するつひ、どうじとへ。」

ボクがそつ言つなり、

”バリバリッ！”

つて郵便屋さんの衣装が裂けて、中から出てきたのは……

「へつ？ 口ボット……？ 君、口ボットだったの？」

「クンと再び頷く郵便屋さん。

道理で身長が3㍍くらいあって、手とか顔とかメカニックでメタリックだと思ったよ～

”がこおん”

すると、そのロボットさんの内部が開いて一部が変形。ちょつとボクがスッポリ入れるぐらいのスペースができた。

いや、乗り込むといつよつ、

（むしろ、装着するつて感じかな？）

ボクは姉さんが法律的にギリギリアウトっぽい画像をぱらぱら時々のを阻止すべく、考える前に飛び乗った！

考える前にまず動け！

ねだるな勝ち取れ！

の精神だよ。

ボクが乗り込んだ途端にかかるフワリとした浮遊感…

あつ、なんか気持ちいいかも…

だから、ボクは叫ぶ！

「あい・さやん・ふりあーーーいーー！」

この日、ボクは生まれて始めて音速を突破した…

途中、何処からか

『ハアハア…可愛い男の娘…ハアハア…可愛い男の娘を抱っこ…私は絶対にISの中で勝ち組ですう』

つて声が聞こえた気がしたけど…

空耳だよね？

以上、回想終了

多分、アメリカへ着いたボクは姉さんと、信じられないことにあの姉さんが親友と言い切ったメタル・ウサ!!!のお姉さんと知り合つた。

『私の事は束ちゃんでいいよ』

『では、私の事は”お姉ちゃん（永遠の17歳）”で』

『なんで姉さんまで呼び方変えなきやいけないのーー』

『呼んでくれないなら、あの[ヲ]真を…』

『OK。束ちゃんにお姉ちゃんだね?』

フツ
…

弟なんて無力なもんや…

まあ、そんなこんなでボクと束ちゃんとお姉ちゃんの共同生活は始まつたんだ。

まあ、他にも色々あつたけど…

ボクの髪が長い理由つて…

『アキくん、髪を勝手に切つたらお小遣い減額です。髪のお手入れを欠かしても減額です』

ボクが女の子の服を着てる理由も…

『アキちゃんは、荷物とか持つてきてないよね』　大丈夫　束
さんじドーンと任せなさい…』

任せたら、女の子の服しか無かつた（泣）

しかも、回りに洋服屋とか無かつたし…

ま、ま、ま、他にも色々話したい事はあるけど、今は急いでるからつ
…

えつ？

何処に行くのかつて？

”藍越学園”って高校の入試だよ？

それじゃあ、行つてきまあ～す

この時のボクは、まだ知らなかつたんだ。

ボクにあんな出会いと運命が待つてたなんて…

皆様、「J愛読ありがとう」「やれこましたm(—)m

この物語は、あくまでギャグです

そして、連動企画＆コラボといつ…カオスなストーリーになつてお
ります(へへへ)

いや、正直に言えばバカテス・キャラを描くのが久しぶり過ぎて、
あの世界の雰囲気を上手くだせたか、あるいはISの世界観と上手
くミックスできたか激しく不安ですが、もし読んでくださった皆様
が面白いと思って頂けるなら、不定期＆短期連載になりますが、描
いていこうかなあ～と思つてます(○へへへ)b

それでは、また次回があることを願いつつ(—)

【Episode 001】第2話 "夫を舞うのはゲッターなれど、バ

皆様、本日一度目の「んばんわー

深夜アップになりましたが、めげてはいな暮灘です（＾＾；

なんと、第1話をアップしてから書き始め、完成してしまった第2話です（＾＾；）b

不定期更新とは、早まる場合もあるつて事で…つてこのネタ、前にもやりましたつけ？（＾＾；

いつまでも、あると思つたネタと勢い！

といつのが身に染みてる暮灘だけに、執筆を優先してしまいました。

感想を書いて頂いた皆様、暮灘の他の作品をお待ちの皆様、エゴ丸出しなのはわかっていますがご容赦を（――）

さて、今回のエピソードは…

バカテスから美少女キャラ（？）っぽいのが一人出演します。

一人は変化球で、もう一人は…ボーグ？（＾＾；

とにもかくにも、またまた伏線とネタを満載した…というよりサブ
タイからしてネタな第2話、お楽しみいただければ幸いです（o^
-) b

明久 アキちゃん side -

つて絶対に（ ）の中の注釈は要らないよねつ！？

いや、それはともかく…

ボクが離れた途端、メタル・ニンジンは変形を始めて…

『『『ゲッ ー・ブレイクー!』』』

そして三分割しながら飛んで空中で合体すると、

『チヨーンジ・ドラ ン・スイッチ・オンー!』

全長50㍍位のトマホーク投げたり額かひびームを撃つやつな”何か”になつてました（汗）

（束ちゃん、スパロボとか好きだもんなあ～…）

毎度の事だけど…

（エネルギー保存の法則とか質量保存の法則や慣性の法則とかって、どうなってるんだろ……？）

いや、そういうのを無視するのが、束ちゃんやお姉ちゃんだって分かつてはいるけど…

ボクがそんな事を考へてると、えーと…

【三位一体の合体ロボ的な何か】

は、追いかけてきた【何処かで見覚えのある真っ赤な丸模様】を描いた戦闘機とか戦闘ヘリ相手に無双してたりして…

（ボ、ボク、知~らない！）

取り敢えずこれ以上関わったらいけない気がしたボクは…

『 チューンジ・ライー！ スイッチ・オンー！』

そのまま後退りして逃走しました（汗）

『 音速を超える戦いを魅せてあげましょ~…マッハ・スペシャル！

！』

超音速で戦車隊を蹴散らす音を、背中に聞きながら…

「ね、ねえ、”ミズキ”」

ボクが呼び掛けると、

『はい アキちゃん、なんでしょう?』

と、首に巻いたチョーカー（首輪）、正確にはそこに下がつてゐる”ド派手な”デザインのクロス”から返事が帰ってきた。

えーと、正式には【量子演算式光バイオニコーコーチング型能動的制御多目的汎用サポート疑似人格システム】だったつけ?

束ちゃん曰く

「ガンダム00のハロ、FSSSのファティマ、ナイライダーのナイト2000みたいなものよ」

つて言つてたけど…

(例えの年代がバラバラだよね?)

束ちゃんつて本当は何歳なんだろ？

（ま、まあどうでもいいかっ！ うん…）

なんか背中に氷柱を入れられたような寒気を感じたボクは、慌てて思考を切り替えた。

「のままにして…だ、大丈夫かな？」

明日には日本つて国が歴史用語になつてたりしないよね？（汗）

『大丈夫ですよ～ シャロンさんは優しい人ですから 不思議と死人は出ない筈ですよ？ 多分ですけど』

「今、”不思議＆筈＆多分” つて言つたよねっ！？ それ、スッゴい不確定要素なんだけどっ！？』

シャロンつて言つのは、正式には”シャロン・アップルトン・システム”つて言つて、今大暴れしてる【ゲッター・ニンジン】に搭載されてる某マギと同じ三位一体の疑似人格型制御コンピュータらしいんだ。

元々は束ちゃんとお姉ちゃんが、某ウォーカロイドのプログラムを色々いじつて機能拡張してるうちに出来上がつてたプログラマらしいんだけど…

ミズキの説明によれば…

『ハーハンヒントの血分…

ライガーとしての血分…

ポセイドンとしての血分…

で構成されてる… ってえーつー…?

「色々駄田じやんー！ それって陸海空で闘争本能剥き出しの殺る
気満々なことだよねー…」

『心配無用です あれにはゲ ター線とか危ない物は使ってませ
んから ただちょこつと熱核反応炉とかを3基積んで直列に繋い
だりしますから、下手に破壊される少しあーし地形は変わっちゃ
うかもしませんけどおー』

それ違う意味で… というかストレートな意味で危ないってーー

「ほ、ボクつてそんなのに乗っかられただち出されたのー…」

『心配』無用ですよー 燃料漏れとかありませんでしたし

あつたら今頃ボクはいつして歩いてないと困りけどなあ…

『シャロンさんはあれでアキちゃんの密入国をサポートしてくれて
るんですけど、気にしたら駄田です』

いや、密入国になつたやつたのは、束ちゃんとお姉ちゃんの送り出し方が問題であつて…

いや、それは言つてもしょうがない。

それより、

「潜入を破壊工作じゃなくて破壊活動でいつもむかにすねつてやつ方は、実際どうなんだ…？」

束ちゃん、お姉ちゃん…

破壊工作と破壊活動は別物だからね？

『それよりもアキちゃん、そろそろ急がないと【藍越学園】の入試に遅刻してしまいますよ。』

「やつだつたあ～つ……」

ボクとミズキは、慌てて走りだした。

後ろからさつきから連続した爆発音とか聞こえてるけど、男は後ろを振り向かないものだよね？ ね？

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

わざわざ、やつてきた試験会場だけ。

ボクは外まではミズキの道案内と、内部の係員の人の案内で会場へ
来たんだけど…

「え？ なんだつて”IS”があんなどこにあるの？！」

あの人型のロボットっぽいのって”IS”だよね？

『さあ？ それは私にも…』

”IS”…正式には【インターナショナル・ストライカー】。

束ちゃんやお姉ちゃんが開発してて、ボクがこの3年間テスト・プ
レイを繰り返した最新鋭超体感ゲーム機だ。

例えば…【戦場の絆】ってゲーム知ってる？

あれはモビルスーツでロボットの「クレピット」を模したゲーム筐
台に乗り込んで戦う戦術シミュレーションだけ、ISはその進化
版みたいな物で、

『マルチフォーム・パワードスーツを来て、世界を舞台に戦つんだ
ぴょん』

つて束ちゃんは言つてたつけ…

詳しく述べ知らないけど、束ちゃんのお姉ちゃん以外のもう一人の親友の”ちーちゃん”つて人がそれの名人で、【モンド・グロッソ】つて世界大会で優勝してるんだつてさ

（ボクもいつか出場したいなあー）

意外と得意なんだよ？

「でも、造りは新しそうだけど、ちょっとトザインは古い…かな？」

ラスボス機の白騎士に、ザコの打鉄のイカツさを合わせたようなデザインだけど…

ボクがISに触れようとした瞬間！

「明久？ 明久のかつ！？」

声に振り返ったボクの視線の先にいたのは、下着…
じやなくて、肌着っぽいスポーツウェアを着た濃いココア色の短い
髪と、エメラルド色の瞳を持つ”美少女”…

でもボクにはわかる。

この少女は、男でも女の子でもない、”第3の性”だつて…

だつて…

「もしかして、”秀ちゃん”…？」

「やつぱり明久なのじゃなつ…！」

3年振りに再会した幼馴染みは、ボクに駆け寄ってきて…

「会いたかったぞつ…！」

”どすんつ！”

ボクにタックルするとそのまま押し倒して、そのままマウント・ポジションから…

「3年間も連絡を寄せざず…心配をかけり…」

”Choo-！”

強引に唇を重ねた…

『男の娘同士のキス！ 男の娘同士のマウス！ マウス…！… 嘴呼、カミサマ…』これは天国ですかあ～～～つ…！…？』

…ハズキ、つるる。

久しぶりに再会したボクと幼馴染みの木下秀吉…

あれ?

でも、秀ちゃんがどうしてここに?..

秀ちゃんも、【藍越学園】を受験するのかな?

だったら嬉しいなあ~

【Episode00】第2話 "・天を舞ひのはケッターなれど、バ

皆様、「J愛読ありがとう」「やれこました」m(—)m

IB…インフィニット・バカトリオ（無限の）バカ）の一人目は、
なんと秀吉でしたあ～

まあ、三人目は本来の…ですが（笑）

どうやら、Jの異色コラボも興味を持つて下さる読者様もけつこつ
いらっしゃるようで、作者としては嬉しい限りです m(—)m

今は取り敢えず、ネタと勢いがある間は書きためるという方向です
が、それが尽きても需要があるならJギュラー連載とかも考えて行きたいと思っています。

そんなこんなで次のアップは早くて明日ですが、皆様のお許しがあるなら取り敢えず集中連載をしてみよつかと思つてます。

それでは、また次回お会いできる事を祈りつつ(—)

皆様、こんにちわ～

何とか今日も生きてる暮灘です(へへへ)

他の暮灘現役連載作品を「愛読の皆様、一時的にですが、少しの間この”H-B”の短期集中連載に傾注させてください(――)

詳しく述べは活動報告に描きますが、急速に脳内画像が活性化してまして、勢いとネタがあるうちにある程度の形を作らないと、消えて一度と書けなくなりそうなので(へへへ)

さて、今回の見所は…

秀ちゃんが肉食系小悪魔(！？)です。

アキちゃんの可愛さが書いてて変なテンションになるぐらい異常です。(”バカテスぢや”を参考にしたからか?)

ミズキは(主に自分に)素直なテバイスです。

アキちゃん&秀ちゃんのH-B作中の強さレベルが、ちょっとびり分か

ります。

そして、ラストにバカトリオの最後の一人が…

こんなエピソードですが、楽しんでいただき感想なんかをいただけた日には、作者大喜びです（o^-^）b

吉井明久と木下秀吉は、小学校時代を共に過ごした親友同士である…

3年振りに再会する一人の幼馴染み（ツイン男の娘）…

押し倒される明久に、唇を重ねる秀吉…

いや、だから同性の親友だつてばさも（汗）

”ぴちゅ…べちゅ…”

淫らな水音が場に流れ、絡められる舌は上手く甘く…

明久は、ただされるがままに秀吉に口内を蹂躪されていた…

そこに抵抗の意思は最早無く、明久はその甘美な感覚に身を任せ…

（明久…）

（秀ちゃん…）

『 Yes! Yes! ヘブンズ・ゲートはすぐそこですわ～ 』

このまま年齢制限に引っ掛かりそうなシーンが続くと思こさや…

”ちゅぱつ…つづ～”

二人唾液が混じりあつた混合液が糸を引いた…

「久しぶりの明久の唇、実に美味だつたぞい」

「もう… 秀ちゃん、相変わらず強引だよね？」

秀吉は立ち上がり、

「ヌシもいひてうシチュエーションの方が好ましいぢやろ？ なんせ、昔は自分からはキス一つできぬ奥手じやつたからの～」

意味ありげに笑つた。

押し倒された姿のまま明久は、顔を真つ赤にしてソッポを向き、

「…ばか」

と、小さく呟いた。

「それにしても、やそる姿じゃのうへ

と、妙に色氣のある舐めるような視線を注ぐ秀吉。

「スカートがはだけて細い脚に、女物の可愛いデザインの小さな下着が丸見えだぞい」

「やんつ！」

慌てて起き上がりつてスカートを押さえる明久。

「秀ちゃんのバカーフー！」

「クッククク…3年という歳月は、ここまで人を変える物かのう？ 明久が女物の下着を履きこなすようになると…これは愉快じや」

「う…」

明久はペタンと座りこんだ姿勢で、涙田+上田使いといつある意味最強コンボで、

「だつて束ちゃんもお姉ちゃんも、こいつ下着しか用意してくれないし…」

秀吉は、クスッとアルカイック・スマイルを浮かべ、跪くように明久の耳元に唇を寄せると…

「今のお主は本物の少女のようじや…明久、お主は愛らしく可憐じや 実にワシ好みじやぞ？」

明久はただでさえ赤かつた顔を更に紅らめ、

「も、元から可愛い秀ちゃんに、い、言われても…」

だが、明久にこれ以上反論させる気はないのか秀吉は、

”ペロッ”

「ひゃん！？」

突然、耳の穴を舐められて、その擦つたさに確かに秀吉の言つよつに少女のような小さい悲鳴を上げる明久だった。

「秀ちゃんのばか…きらい…」

床に”のの字”を書いて拗ねる明久に、秀吉は苦笑しながら、

「すまんすまん。つい悪ふざけが過ぎたわ。じゃが、それも明久の愛らしさ故…許せ」

「あううう～～～」

ワタワタする明久を満喫したのか秀吉は、ふと真顔になり、

「ところで明久よ、いくつか質問があるのじゃが…良いか？」

「へ、へ…」

「先ずは一つ。ワシが明久だと一目でわかつた理由なんじゃが…もしかしてお主、この三年間、身體が伸びてないのではないか？骨格も殆ど変わっていない…寧ろ、か細くなつた気がするのう…」

「つぐう～」

「それに明久よ…お主、ナレト声が高かつたかのう？ その、何と云つが…」

秀吉は言葉を選ばぬひこして、

「この二つの表現は適切かどうか分からぬが…お主の声、某鍊金術師アニメに出演していた時の”釘宮理恵”の声にそつくりなのじゃが…」

…

「つみゅひー？」

「うう」

「うう」

「うう」

「うう」

…

42

…萌えない？

「多分、それは束ちゃんやお姉ちゃんの実験のせいじゃないかなって…」

「？ どういう意味じゃ？」

そして明久は、大雑把にではあるがこの三年の出来事を秀吉に話すのだった。

「なるほどの…投薬実験や食事の調整か。最近のゲーム開発は随分と過激なのじゃな？」

「うん。束ちゃんに言わせるとね…」

『アキちゃん、この”IS”をただのゲームと思つたらいけないぴ

よ～ん この束さんが全知全能の一部を傾けて作ったマシンだもん 戰闘のリアルさは、リアルって言葉の常識を覆すレベルかもよ～』

「実際、スッゴいリアルでさあ”IS”で全てのステージをクリアする為には、軍隊でエースくらい軽くなれる技量と判断力がいるつて束ちゃん言つてたつナ…」

「それはまた過酷じやの～。んつ？ その言い方じやとお主はクリアしたのか？」

「したよ～ 各勢力のエース騎はそんなに強くないけど、隠しキヤラで”真・ラスボス”の【白騎士】つていう機体がメチャクチャ強くてさ。ゲームを斬り払うとか”悪質なチート技（笑）”使つてくるし… 1機でゲーム・バランス壊しまくつてるつて感じかな？」

すると秀吉は演技ではなく素で驚いた顔で、

「それは凄いのじや！ ワシも実はさつき”代表戦モード”とやらでプレイしてな。ブリテンのエースには何とか勝てたが、チャイナの【見えない砲撃】に苦戦してのう… 引き分けに持ち込むのが清々じやつたわ」

うんうんと腕を組んで頷く秀吉。

明久は合点がいったという顔でポンと手を打ち、

「あつ！ それで秀ちゃん、そんなスポーツ・ウェアのインナーみたいな格好してたんだ？」

「つむ。なんでも全身で操作するゲームらしいので動きやすい服装が奨励されるでようでな」

「そつかあ。確かにそつかもね？ ん、でも始めてのプレイでそこまで行ったのって、むしろ凄いと思つよ」

すると秀吉は苦笑しながら、

「それでもないぞい。あのブリテン騎はビット…いや、BT”だつたかのう？ ともかく遠隔操作砲台を出す時に止まる妙なクセがあるじやろ？ そこを突いて接近戦に持ち込み仕留めただけじゃ」

「えつ！？ よくそのクセをファースト・バトルで見抜いたねつ！？」

秀吉はフフンと少し血腫(氣)こ、

「明久、忘れたのか？ ワシはこいつ見えても役者の卵じゃ。人を觀察してクセを見抜くのは、お手のものじや じゃなければ、即興で真似て演じるなど出来はせぬ」

今度は明久が関心したようだ、

「ほえ～…秀ちゃん、やっぱリス！」や！ でも、近接の間合いで入る前にミサイルとか撃つて来なかつた？」

すると秀吉は苦笑いで、

「あの程度のヒヤロヒヤロ弾に当たつてやるほど、お人好しではあらぬわ。しかも弾幕ならともかく、数はたつた一発じやろ？ 一呼

吸で五発飛んでくる姉上の【閻魔五段突き】に比べれば、どうとこ
うことはない」

明久は、文武に秀でた秀吉の双子の姉を思い出しながら、

「ゆーーひちやんも相変わらず？」

秀吉は大きく頷き、

「うむ。相変わらず修行三昧じゃ。姉上の武の志は高いからのう…
何しろ、目指す先は【何人たりとも只の一撃で葬れる拳】… 真の”
必殺拳”じゃからな」

それを習得して木下優子は何をしようとしているのだろうか？（汗）

「明久、もし良ければお主のプレイを見せてはくれぬか？ なに、
わりと血沸腾るゲームだったのにな。少し上級者のプレイを盗
みたいのじゃ」

秀吉の急な頼みに明久は困ったようだ…

「それはいいけど… でも、【藍越学園】の受験が…」

「あると秀吉、「おや？」といつ顔で、

「お主も藍越を受験するつもりだったのか？ なら、ますます問題

ないぞい 」

「 なんで？」

不思議そうな明久に、

「 ワシも藍越を受験しようつとこに来たのじゃがな。真つ先に言わ
れたのが、着替えてそれをテスト・プレイすることだったのぢや」

「 へえ～。受験にゲーム使うなんて、随分ユニークなんだね？ 反
射能力とか空間認識能力とかを測定したいのかな？」

「 さてのう… ん？」

秀吉は、微かに聞こえた足音に振り返り、

「 おお、 ” 一夏 ” 戻ったのか？」

視線の先にいた学生服姿の長身少年に微笑んだ。

「 ああ。 ただいま、 秀吉」

一夏は秀吉に親しげに微笑み返した後、 明久を柔らかい視線で見て、

「 俺も出来れば君のプレイ、 見てみたいんだけど… いいかな？」

今、ここに”三人のバカ”が集結を果たした…

”運命のバカ達”を…！！

歴史は、世界は彼らに何をさせようというのかつ…？

皆様、「J愛読ありがとうございましたm(—)m

昔からお世話になつてゐる皆様からの「J感想も嬉しかつたし、同じく
らい新しい読者様からの感想も嬉しいものです

いや、といつかエスとバカテスのマッチングが上手くいつてゐるのか
イマイチ自信が(へへへ)

今回は、秀ちゃんが実は強キャラであることが判明…
つて、シミコレーションとはいへ、せつしー倒して鈴と引き分けて
るやんつ…?

明久は…汝、問うなかれ(へへへ)

ラストにいつくんがけよつぴり顔を出しましたが、次回は本格的コ
ンタクトの予定です(○へへへ)b

それでは、また次回お会いできる事を祈つつ(—)

【Episode00】第4話 "アキラちゃんのキーワードは美少女

皆様、おはようございますm(——)m

変な時間に失礼します。

色々あつてまたまた眠れなかつた暮灘です(^ ^ ;

どうせ眠れないのなら、開き直つて1本書いてしまえ~
と、書いてたら本当にIB第4話が出来上がつてしましました(^
— ^ :)

さて、今回のHピソードは…

の前に注意点。

現在と同じ路線の

【心優しくて鈍感で清く正しい一夏】

を(+)希望の読者様は、お戻りなされた方がいいです。

何故かと云うと、"IB"の一夏は、

【大の”女尊男卑”嫌い】

で、強者と言いながら、いやとこいつと弱者のフリをしたり、実態のない強さをひけらかし威張りちらすタイプが、憎悪するほど嫌いです。

だから…

ぶつけやけ、女の子にも容赦無いです（えつ？）

『女が強いつてんなら、手加減は要らないよな？』

つて本当に手加減しないタイプです（へーへー）

ある意味、真っ直ぐな少年が歪んだ価値観のせいでの“真っ直ぐ歪んでしまつた”といつか…（へーへーへー）

そんな一夏で構わないという方のみお読みください（――）

内容は、前回第3話の一夏視点と、一夏の中学時代とがが語られますよ～（○> - - ）b

【Episode 001】第4話 "・アキラちゃんのキーワードは美少女

さて、少し時間を巻き戻す。

ついでに視点も変えてしまえ。

そうすれば、また別の何かも見えてくるだらうから。

世界は常に多角構造で、人の主観で全てを把握できる物ではない。何故なら、人は自らの立ち位置で見える物しか主観として認識できないのだから…

と、真面目に語つた所で工Bにシリアスを求めるなど、砂漠で水を求めるが如しながら（笑）

? ? side -

（ど、どひょひ…）

【試験会場】 に戻つてきたり、同じ中学から一緒にテスト受けに来

テスト・ベース

たダチが、見ず知らずの女の子押し倒しました…

（しかし、女の子が女の子襲つてゐる所にしか見えん… わかがは秀吉…）

「秀吉… 恐ろしい（野の）娘」

いや、感心するといじやないだろおーつー！？
しゃんとしる、”俺”！

え…

取り敢えず、状況を整理しようが…

なんか、何故か試験会場に置いてあつた”IS”…【インフィニッシュ・ストライク】を俺が触つたらいきなり起動した。

そうしたら、係員だか研究員だかがワラワラ出てきて、”俺”は連行されましたとさ。

（よし、これまではOKだ）

えつ？

詐欺じゃないんだから俺俺言つてないで、そろそろ駕籠乗れつて？

あつ、そうだつたな。

「ホン…

我が名は”織斑一夏”！！

一片の曇りなく鍛え磨かれし、一振りの真鋼まがねの刃なりつ…！…

どう？ 決まった？
えつ？

『何ぞの中一病的な名乗つは？』 だつて？

酷えなあ～。

いや、師匠に名乗つは正々堂々とやれつて言われてるもんでね。

んじやあ、普通に…

俺は”織斑一夏”。

俺がホンのガキの頃…

まだ、”IS”なんて妖しげなモンが出てくる前の時代…【男女平等】つて時代を知つてゐる身としちゃあ、【女尊男卑】なんて思想が氣色悪くてしようがない男だ。

そんな理由で、古式の実戦剣術とかその辺なんぞを少々かじつてゐる。

武の世界はいいぜえ～！

男も女もなく、ただ強いか弱いか…それだけしか基準がないっての

がシンプルでいい。

まあ、そんな生き方してりや当然、『EISは女しか云々』と、妙な言い掛けりを付けてくる奴は事欠かないが、その時は、

『んで、お前の身内にEIS乗りはいるのか?』

と先ずは聞く。

口先三寸の嘘をつく女は多いが… 99%以上はいないわな。

(そりゃそうだ。全世界に束さんがばら蒔いたコアの数は、精々400ちょい…)

生産されてるEISの数は、実際にはもつと少ない。

身内にEIS乗りがいる確率なんて、ぶっちゃけ宝くじに当たる確率より低い。

そこで大人しく引き下がりやいいが、大抵は引き下がらない。

だから”軽く”実力行使。

首根っこを鷲掴みして吊り上げる。

所謂、ネックハンキング・ツリー（首吊りの木）ってプロレス技さ。

『俺の握力は200kgを軽く超える』

うそぴょん。

その7割位が精々だ。

『賭けようじゃないか？ 俺がお前の首をへし折るのが早いか、お前が女の力と主張するISが駆けつてくれるのが早いか…なんてのはどうだ？』

そして、更に心を粉碎する為にこう続けるのさ。

『時間が足りねえってんだつたら…俺は別にお前を犯しながら鉄拳叩きこんで、くたばるまでつて条件でもいいんだぜ？』

まあ、ここまでやると恐怖と絞まつてんので、大半は失禁する。

だから、言つてやるんだよ。

『テメエの物でもねえ力をひけらかすからこいつにあう。所詮お前は純粋な力の前じやあ、小便垂れ流す程度の抵抗しかできない、薄汚いクソ袋に過ぎんのさ』

ISつてのは、殆どが国家管理だ。

個人所有してる、あるいは自分の意思で勝手に持ち出せる人間は殆どいない。

たかが一人の民間人の為に出てくるなんぞ、まず有り得、滅多ない。

そして、地べたに落とされ、不様に這いつくばりゲホゲホ咳き込んでる顔面に…

『呪うなら自分の力のなさを呪え。恨むなら、自分の手の平にない力を威を誇った己の愚かさを恨め…お前は【無力】だ』

靴底でヤクザキック氣味に”そげぶつー”して、はい終了

ああ、これでも氣を使つてるんだぜ？

死ない。『氣絶しないように、だがしつかり痛み感じるように鼻骨や前歯をへし折るのは、これで結構力加減が難しい。

それに俺は、そのまま放置して帰つちまつからな。

鼻骨や前歯がグチャつと潰れて血塗れ顔面の女なんて、普通は犯そうとは思わないだろ？

むしろそういう方が萌えるつて変態に運悪くエンカウントしてブチこまれようが、お持ち帰りされようが知つたこいつじゃない。

あん？

お前はやらないのかだつて？

俺は、【女尊男卑】なんて薄気味悪い”宗教”に感染した”狂信病”なんかに突っ込みたくないからな。

思想的疫病に体液感染するなんぞ、御免被るよ。

（そういうや、中1の頃に俺の行動に文句つけてきた【主義者】の女教師をフルボッコにしたっけか…）

ああ、”主義者”つてのは自分を性革命運動の闘士を気取つてゐる【好戦的性差別主義者】の事だ。

ISが出てきてから、自分達の社会的価値が上がつてと勘違いした無能な俗物一派つてとこか？

なんの事はない。

ちょいと趣向を凝らして罵を張り、頭から少々熱湯ぶっかけて、追い討ちに唐辛子汁（キムチ鍋のもとだつたつけ？）をぶっかけ、痛みで転げ回つてることを蹴り続けただけだ。

なんか途中で命乞いしてたみたいだけど、俺は構わぬ蹴り続けた。

聞く必要ないだろ？

殺すような蹴り方してないんだから。

ただ痛みで気絶できねーように蹴つてただけだ。

んで、その誰にケンカ売つたかも理解してないマヌケ教師の神経だ

か思考だかが擦り切れた頃に駆け付けた教師達…

俺は足元の”残骸”の頭を踏みつけながら、特に同類の”主義者”教師の中指一本をおっ立て、『かもーん』と指をクイクイ動かしながら、

『んで、次は誰がこうなりたい?』

と、俺の上履きの下で壊れたデータディスクみたいに「ごめんなさい」「めんなさい」と繰り返す汚物を中指から切り替えて立てた親指で指した。

結局、その事件はやりやむやにされた。

俺は別にカンカン（少年鑑別所）送りになつても構わなかつたんだけど、【千冬姉】ともめたくない”上方”が揉み消したらしい。

ああ、言つとくけど女教師だったスクラップ、怪我自体は大したことないぜ?

まあ、あの様子じや【鉄格子のはまつた病室】からは、じばりぐれそうもないけどね。

それにも…

（千冬姉の主義者嫌いは有名だからな…）

『私が姉ながら、主義者どもが千冬姉を贊美する集会に乗り込んで、
私をキサマラのくだらん思想の廣告塔にでもしてみろ…その首全
てを跳ね飛ばし、醜い顔をお台場で晒し首にしてくれる』

つて言い切った時は、実に痛快だった…！

（とこりうか、あの田はなマチだつたな…）

あつと千冬姉には、俺よりデカいキ タマが付いてるに違いない。
いや、面と向かってそんな事を言つた田はな，“お台場の晒し首”
になるのはあつと俺だけどね（汗）

しか残つてないけどな。

【狂犬】

ま、その事件が現実にあつたって証拠は、俺に付けられたアダ名…

簡単に言えば、俺は…

『力を誇示していいのは同じく力でねじ伏せられる覚悟のある者だけ』

つて当たり前の理屈を理解しないまんま、テメエが手にした力でもないのに威張り腐った奴が、男女以前に嫌いって事だな。

だから、ISがどうこうつてのを笠に着て女性優越論を語る奴は、同質の”力”で【説教（そげぶつ！）】して、その【思い上がり（げんそう）】を碎く事にしてる。

格好いい呼び方するなら、さしづめ【高慢殺し（プライド・ブレイカー）】ってどうかな？

そりゃそんな生き方をしてりや、どつかの古典小説じゃないが、【俺は友達が少ない】になっちまつと思うが、どういう訳か要注意危険人物の筈なのに、どういう訳か俺には友達が少なくは無かつた。

確かに俺の悪名を利用してようと接觸してきた奴もいたし、実際に利用した愚か者もいたが、そういうのは問答無用で”そげぶつ！”だ。

まあ、それはさておき中でも特に仲が良かつたのは、【五反田弾】つて氣のいい茶髪ロングモード…

（今押し倒されたままの女の子を、妙に色っぽい目線で視姦（笑）している）

【木下秀吉】だ。

気が付くと、秀吉は不意に真面目な顔になり、女の子と話しだした。

どうも様子を察するに、あの女の子は秀吉の苗飼染みらしい。

（女の子に興味しめさないから、容姿込みでつきりアッチ系かと

思つてたけど…)

なるほど…

ああいう感じの娘がタイプだつたか…

(確かにつけの中学生は、ああいう“真性お嬢様系”はないしな
…)

あるいは…

(実はあの娘が想い人で、だから他の娘に興味を示さなかつたとか、
か?)

秀吉の出会い前の過去に興味を持つた俺は、少し聞き耳を立てる事
にした。

「なるほど…投薬実験や食事の調整か。最近のゲーム開発は随
分と過激なのじゃな?」

ちょっと待て!

今、あの女の子はゲームって言わなかつたか…?

「実際、スッゴいリアルでさあ　　”E-S”で全てのステージをク
リアする為には、軍隊でエースくらい軽くなれる技量と判断力がい

「…束さん…アンタ、あの娘に会っていたのか？」

（束さん…アンタ、あの娘に会っていたのか？）

いや、問題はそこじゃない…

（その娘に何を教え、何をやらせてたんだ…？）

（会話から推測すると、ISをゲームか何かと思い込まされていた…？
（バカなつ！？…いや、でも有り得るか？）

普通の人間の目の前にISを持って来たって、それがISだとは思わないかもしれない…

（俺だつて、”あの時”にISを装着してた千冬姉を見なければ、
あれが本物のISだつて気付かなかつたかもな…）

ISはその希少性から、一般人が生で見る機会は殆ど無い。

その先入観から、目の前にISを置かれても普通ならISを模した
シミュレータ、ゲームと言わされたらゲームと信じるかもしれない…

「それはまた過酷じやの…んつ？ その言い方じやとお主はクリ
アしたのか？」

「したよ～ 各勢力のエース騎はそんなに強くないけど、隠しキ

ヤラで”真・ラスボス”の【白騎士】つていう機体がメチャクチャ強くてさ。ゲームを斬り払うとか”悪質なチート技（笑）”使ってぐるし…1機でゲーム・バランス壊しまくつてるつて感じかな？”

（ちょつ！？ まつ！…）

いくらシミコレータだからって、あの女の子は、【あの”白騎士”】を倒したってのかよつ！？

「明久、もし良ければお主のプレイを見せてはくれぬか？ なに、わりと血沸腾肉踊るゲームだったでのな。少し上級者のプレイを盗みたいのじや」

「それはいいけど…でも、【藍越学園】の受験が…」

（ヤバ…）

俺もあの娘のプレイを見たくなつてきた……

「お主も藍越を受験するつもりだったのか？ なら、ますます問題ないぞい」

「なんで？」

「ワシも藍越を受験しようつとこに来たのじゃがな。真つ先に言わ
れたのが、着替えてそれをテスト・プレイすることだったのぢや」

「へえ～。受験にゲーム使うなんて、随分ユニークなんだね？ 反
射能力とか空間認識能力とかを測定したいのかな？」

気が付いたら、俺は一人に向かい歩きだしていた。

「さてのう……ん？」

俺の気配か足音に気付いたのか、秀吉は振り返り、

「おお、”一夏”戻ったのか？」

【Episode00】第4話 "・アキラちゃんのキーワードは美少女

皆様、『J愛読ありがとう』やござましたm(—)m

実はタグの【残酷な描写】云々と云うのは、Jの一夏の過去の為につけたような物です(へへへ)

作者的には、本当は【人間として妥協できないぐらい真っ直ぐ過ぎて、歪んだ世界からは歪んで見える一夏】は大好きなんですが、皆様の目にほどよい目に映つたでしょうか?(へへへ)

何というか…書いてる作者さんが言うのもなんですが、上条さん的に言おうか、悪条件さん(笑)と言おうか(へへへ)

今はただ、IBの一夏が読者様に嫌われない事を祈るのみツス

次回はいよいよ明久のIB操縦技術が明らかに?

それでは、また次回があることを祈りつつ(—)

追伸

一夏は何人かのISヒロインのフラグが消滅するのと引き換えに、既にこの時点で某バカテス・ヒロインに初期フラグが立つてたりして…

皆様、こんばんわー

またしても、同田一度田の『挨拶な暮灘です（＾＾・

書き上がつたので、前倒しでアップです（^__^；）

本来なら『感想への返信を書きつつ、ゆづくつ同田のアップに控え
るのがスジつてものですが…

えーと…

画像が回り切っちゃいました（・_・――^A

今回は、やうですね…アキちゃん、秀ちゃん、いっくんの【トリオ
としての原作の立ち位置】を確認できるヒンズードかな？

取り敢えず、難しい理屈は抜きにして、メインタイトルにもなつて
る【バカトリオ】の掛け合いを、読者の皆様に楽しんで貰えたらな
あーと思つてます（^__^；）わ

追伸
書いててアキちゃんがヤバ~ぐら~に…

一夏、頼むからここでフラグ立てるなよ？（笑）

「 ものの、ん？」

秀吉は、微かに聞こえた足音に振り返り、

「 おお、”一夏” 痘つたのか？」

吉井明久と木下秀吉… 一人の男の娘の前に姿を現した織斑 一夏は、

「 俺も出来れば君のプレイ、見てみたいんだけど… いいかな？」

と提案した。

「え～と… 秀ちゃん、お知り合い？」

明らかに警戒の色を滲ませながら、ササッと小動物チックに秀吉の
背中に隠れる明久に、一夏は思わず苦笑する。

「 ふむ、”尻合”か… まだ尻は貸しておらんな。ワシは一向に構わ
んのじゃが、一夏に生憎その気が無くての、」

悪戯っぽく笑う秀吉に、

「ワイ！… 秀吉が言つと洒落にならなつて。とこつかガチに取られるから重な」

「ツレなこのう。またそりこつとこが、一夏のソソる部分じやがな」

一夏はハアと小さく溜め息を突き、

「秀吉、毎度思つが… そろそろ掘るのが好きなのか、掘られるのが好きなのかはつきつしてくれ」

すると秀吉、ふふん と平たい胸を張り、

「そんなもの、相手次第に決まつておう。明久なら掘の方が、一夏なら掘られる方が具合良さそうじやで ワシはどうもイケるぞい」

「みやつ！？」

思わず尻尾を踏んづけた時の仔猫みたいな声をあげたのは、当然一夏ではなく明久だ。

「 明久」？

「ワシの背中で顔を真つ赤しながら、仔猫のような仕草で警戒しとる可愛い生き物が、我が最愛の幼馴染みの”明久”ぢや」

秀吉… 君は背中に田でも付いてるのか？ とツツ 「ミたくなるとこだが、秀吉のスキルやスペックを考えると、何となく不思議じやない気がする。

それはともかく…

一夏 side -

(明久って男の名前だよな…?)

秀吉の同類?

(こや、秀吉よつ更に女の子つぱに男の娘なんて、この世に有り得るのか…?)

それに何よつ…

「ぱんつ、女の子用だつたし…」

あつ、しまつた!

思わず口に出してしまつたぜ。

「//シー・?..」

「お主…しつかりくつさつはつせり見ておつたよつじやな? 一体いつから覗いておつたのじや? 観を覗プレイあまり感心せぬぞ?」

田を潤々せせる、明久、って呼ばれてる女の子に、ジト田の秀吉…

「うわあ～ん！　見ず知らずの男の子にパンツ見られたあ～！　しかも女の子用履いてるとい～！　秀ちゃんが悪いんだあ～つ～！」

泣きながら背中をぽかぽか叩く明久に、

「ぬおつ～？　泣くな明久。そ、そうじや！　お詫びに後でワシのぱんつも見せるぞい！　なんなら、オマケに一夏のズボンもズリ下げてしませよう～！」

「下げんなつ～～～」

優しそうなパツチリな瞳に、白いリボンを巻いたサラサラのミルクティー色の長い髪…

高級そうなフレザーにチェック柄のミニスカート。

今にも折れそうな細い首に巻かれたチョーカーに下がる、銀の下金によく磨かれたピンク色の飾り口をはめこんだ手の込んだ豪華な十字架…

（さしづめ、何処かの十字教系お嬢様ミッション・スクールの制服つてどこか？）

そんな娘が、ビ�して束さんと一緒にいたのかは謎だけ…

（なあ、やつぱつ…）

今時珍しいぐらいウブな普通の…
いや、”極上の美少女”だよ…なあ？

一 夏 side end -

* * * * *

「つ～む、明久よ。この覗き魔の名は『織斑一夏』と言つてのう…
取り敢えず、【女尊男卑】を掲げる女子おなじを、片つ端から”そげぶつ
！”しまくるのが趣味という中々の危険人物なのじゃが…」

「えつ…？」

短い悲鳴じみた驚きの声を上げる明久だったが、

「ヒドシ… あのなあ 秀吉… 流石にその表現は間違っちゃいないが、
誤解を招き過ぎるだ？ 確かに”そげぶつ！”はするが…」

「…するの？」

秀吉の背中に完全に隠れていた明久がそおーと顔を出した。

（「うー！…涙目が反則氣味に可愛いんだけど…）

ぱつかり明久と田があつた（+明久の台詞も取りようによつては…）
一夏はドギマギしながら、

「い、いや、せめて申し開きぐらいは聞いてくれ…なつ？」

「…うん」

不安げな表情で頷く明久に動搖しまくる一夏。そして…

（「…これはなんともレアな一夏なのじやあ…）

見た目は飄々としてるが、

（それにしても、名前以外に掘るとか掘らんとかバスを出したやつ
てるのに、まだ明久の正体に気付かんとは…）

実は、内心で大爆笑してる秀ちゃんであつた。

「簡単に言えば、降り掛かる火の粉を払つただけで、俺から仕掛けたのは、”教師”って学校じゃ絶対的に強い立場に立ち、生徒を煽動し洗脳してた悪質な”主義者”を一匹肅正した時だけだ。OK?」

「へ、うん。おーケーかも…」

まだぎこちないが、何とか笑顔をつくる明久に、一夏はホッと安堵の溜め息を漏らす。

（ひひい硝子細工みたいに纖細そうな女の子は苦手だ…正直、ビリツ扱つていいやらだぜ）

いや…実は女の子違うのだが、今のこっぽいこっぽいの一夏にそれを知る術はない。

（俺の回つには、本氣でいなかつたタイプだしな…俺に寄つてくる女なんぞ、【女に頭をさげないなんて生意氣】なんてクソくだらない理由で因縁吹つ掛けてくる”主義者かぶれ”のアホ牝か…）

あることは、

（”優子”みたいに男女の区分なんてどうでもいい【武闘派】しかいなかつたもんなあ…）

一夏の脳裏に浮かんだのは、秀吉と相似形のよつこつてつてつで、中身はある意味正反対の双子の姉だった。

かつて、拳と木刀というモノの差はあれど、心行くまで武という
肉体言語で語り合つた”ハンサムな彼女”…

【木下優子】の笑顔が…

（アイツの事だから、今頃どこかで元氣で拳をブン回してるんだろう
うなあ～）

己の命を狩り取りかけた優子の破巣拳を思い出し、つい内心で苦笑
する一夏だった。

「まあ、明久よ。一夏が何やら必死に弁明しておつたが、【その男、
危険につき】なのは確かじゃが、無差別に理由なき暴力をふるう訳
ではあらぬ。まあ、言い方を変えるなら…」

秀吉は意味ありげにニヤニヤしながら、

「世の不条理を納得できず、まだ実力行使でしかあらがう術の無き

直線的で直情的な男よ。故に悪人ではあらぬ

「…秀吉、それは俺を遠回しに”単純バカ”と言いたいのか？」

「さあの〜…それは、お主で答えを出すのが一番じゃんつー

秀吉がそう切り返すと、

「プツ…クスクス うん、秀ちゃんの言つ通り、悪い人じゃないみたいだね?」

明久はすっと秀吉の背後から出てきて、

「それじゃあ、改めて…ボクは明久。吉井明久 秀ちゃんとは小学校からの親友をやつてます サッキは変な態度をとつてごめんね?」

「おひ、おひ。別に気にすんな。俺も気にしてないからで」

「うん ありがとおー」

(ぼ、”ボクつ娘”おつー?…り、リアルで見たのは始めてだぜ…)

“どうやら”にはあ～つ”と擬音が付きそうな明久の無防備な笑顔と【ボクつ娘】というパーソナリティの前に、一夏の中についた『吉井明久つて男の名前じゃん?』つて疑問は、跡形もなく消滅したらしい。

（お嬢様なのに、ボクつ娘、…これがいわゆる、）

「ギャップ萌えって奴か？」

「ほえ？」

一夏の言葉に、明久は不思議そつた顔を返したのだった。

「え～と…”おつむらぐん”でいいんだっけ？」

「一夏で構わないぞ？」

すると一夏の言葉に秀吉も相槌を打ち、

「つむ。それが嫌なら”覗き魔”でもよい。ワシが特にそし許す

「俺が許さねえよつー！」

「…」とみ返す一夏に、秀吉はやれやれと首を左右に振り、

「ケツの穴の小さな男だの～」

「小さくて上等！ ガバガバだつたら大変だろ？ がつ…！」

そんな一人の掛け合いを見ながら、再び明久はクスクス笑い、

「二人はどつても仲良しさんだね」

「…」と分それ、かなり誤解入つてると思つた（思つたじやが？）

「やつぱり息ぴつたりじやない えつと、それはともかく… いかくん… は、ちょっと言いにくいかな？」

明久は少し考えて、

「じゃあ、”いつくん” あれ、この呼び方つてどこかで聞いた
ことあるよ？ な…？」

（多分それ、東さんからだと思つ…）

と一夏は口に出しては言わなかつた。

『なんだかややこしくなる気がする…』

といつ野生の直感が、おそらく働いたのだろう。

だから、代わりに「いつ答える。

「別にそれで構わないぞ？」

「じゃあ、僕も好きに読んでいいよ」

「ふうん…じゃあ、面倒なの苦手なんで、短く”アキ”でいいか？」

「うん」

（ちゃん付けされないのって、なんだか新鮮だよ）

と明久は思ったが、

「いつくんもボクのプレイをみたって事で良いのかな？」

「ああ。いいか？」

明久は満面の笑顔で、

「ぜんぜんおつけだよ」

と、明久は【そのままの格好】で乗り込もうとするが、

「おい、着替えなくて良いのか？」

すると、明久はどこか遠くを見るような目で…

「大丈夫だよ…慣れてるから…」

そして、少しだけ涙を瞳に滲ませ…

「魔法少女風フリフリとか、メロメロメイドとかより、ずっとマシな格好だもん…だからいいんだ…」

「明久よ…お主よほど過酷な日常を送ったようだのう…」

秀吉の言葉に、明久の瞳から涙が一つ零れたのだった…

【Episode 00】第5話 "・桃園の誓い？ いえいえ、腐的行

皆様、「J愛読ありがとうJやったm（—）m

何だか三人のノリが良すぎて、肝心の明久のEIS操縦技量を書くスベースが無くなり、

「しまつたあ～つ！」

と思つた暮灘です（^ ^；

いや、前書きにも書きましたが、アキちゃんの可愛さがヤバい事に（^ ^；

個人的には秀ちゃん&いつくんの掛け合いがかなり面白くて、自分で書いて笑つてました（笑）

そして、いつくん＆アキちゃん…
ま、まだフラグ立つてないよね？（汗）

思わず読者様に聞いてしまつ暮灘はヘタレです。

いつくんと【初期フラグが立つてるバカテス・キャラ】はもうお分かりですよね？（^ ^；）

拳と木刀で語り合つたのなら、そりやあ距離も縮まつまゆ（○へ - ）ぢ

あつ、ちなみにラストに出てきたヌコ///メイドとかフリフリ魔法少女とか、あるいは今アキちゃんが着てるブレザー＆ミニスカートは、全て束と冷お手製でエラスツシとしての機能は持つてるつて裏設定が…（・^__^・）

いよいよ次回は明久の腕前披露（これ言つたの何回目だろ？）ツス
ますますカオスになつてきそつな予感はしますが、宜しければ次回
もお願ひします（――）

それでは、また次回お会いできる事を祈つつ（――）

【エピソード6】第6話 & パロディ・使用機体のパラメータって、チコ

皆様、こんばんわー

いつも俺には時間が足りないと思つてゐる暮灘です（^_^；

わへ、ちょっと圧してるので今回は短めに…

今回のエピソードは、前半と後半の作風がかなり異なります（^_^；

前半 明久のエススキルの一部が明らかになる（ミズキの姿が判明）

後半 おバカです（^_^；）

え～と…【凜々しい一夏】を「期待の皆様、」めんなやこ（—）

でも、【健全で健康的な男子中学生丸出しの一夏】は、作者はわりと好きだったりして（^_^；）

こんなエピソードですが、お楽しみいただければ幸いです（^_ -
、）

【Episode00】第6話 "・使用機体のパラメータって、チコ

明久がブレザー＆チェックのミニスカのままISに乗り込む…いや、装着すると言つた方が正しいのか？ともかく、そんな状態になつた明久だが…

「ミズキ、ISコア・イグニッション。オール・システム、エンジン&コンタクト。コントロール・イン・コア・アイズ」

『ミズキ。ISコアに火を入れて。全システムに回線接続、相互情報伝達開始。全てのコントロールを君が把握できるようにしておいて』

そんな趣向のコマンドを明久が口頭で告げると、

『ぴょん』

外からは見えない、網膜直接投影型スクリーンの視界の中に、何といふか…

ウサミミ&綿飴みたいなピンクのふわふわ髪、ついでにきよぬー（本人？談）らしいが、SDキャラの為にわかりずらいキャラクター・

『アイコノ...』

いや、何となく束とキャラがかぶつてるよつたマスクシート・キャラ...』

もつと分かりやすく言えば...

ぶつちやけ、【バカとテストと召喚獣ちゃん】に出てくの、姫 料理の妖精(笑)』に、姿も(微妙に性格も)まんまな【ミズキ(視覚化ver.)】が現れて、

『ラジヤー オールHSシステム、アンダー・コントロール・オブ・マイン』

『"りょーかいですよ 全てのHSシステム、ワタシの管制下に置いちゃいました"』

ミズキからのシステム掌握の確認が入ると明久は、

「じゃあミズキ、データのダウンロードをお願い...って、何これっ!?」このHS、全く初期設定のまんまだよ

『はわわ~。見事なまでの【ヴァージンHS】ですね~』

「秀ちゃんもいっくんも、よくこんな設定で乗つたなあ~。しかも、"ブレオン(ブレード・オンリーの略)"だし...いくら【イージーモード】でも、これでブリテン倒してチャイナに引き分けた秀ちゃんつて、凄いかも...』

『秀ちゃんなら、もしかしたらアキちゃんと同じ【エニアセッシュ】を乗りこなすかもせんね~ あつ、こつそ【トローテ

イ・ラビット】のデータをダウンロードしますかあ？』

ミズキが放つ単語には、明らかに現役IS技術者でも意味が分からぬ物が含まれていたが、もしもこのシリーズが続くなら、やがて語られる…かもしだい。

「ん~、でもせつかくだから”この子”の性能も試してみたいし…ん？」

（おかしいよね…？）

ふと、明久は流れて行く工のデータの中に紛れた違和感に気が付いた。

普通ならよほびしつかり観察と解析せねば気付かぬそれに気付けたのは、やはり開発サイド…それも世界最高のIS権威のすぐそばにいたからだらう。

「ミズキ、もう一度この子のコア・データ、見せてもらえる？」

『はいはーい』

そして、流れ終わったデータを見て、明久はある結論に辿り着いた。

「これ、ボディは新品で初期設定のままだけど…」

『はい。装備が酷似していたので、最初は気付かせんでしたが…』
「コアは間違いない、』

ミズキの言葉に明久は頷き、

「歴戦の強者だよ…それも、全てのIISでトップクラスの、ね」

『凄いですね』　プレイ（稼働）時間なら、ワタシを除けばほぼIIS最長じやないですか？　蓄積データも質がいいですぅ』

「よつぽどいいプレイヤーが使ってたんだろうなあ…　一度、対戦したいや』

『クスクス　アキちゃん、なんだか子供みたいですね』

「？　ボク、まだ子供のつもりだけど？」

『そうでしたねえ』

何やら妙に楽しそうなミズキを不思議に思いながら明久は、

「ねえ、ミズキ…」の子、コアの実戦データをフィードバックして、フィッティングしちゃおうか？』

『ぐつどあいであー　幸いこのコアが入つてた前の子も、同じような特性みたいですから、楽勝ですよー』

「おつけー　じゃあ、始めよつか』

少し時間を巻き戻しつつ、少し視点を変えてみよう。

「一夏よ……確かに明久のスカートが一部捲れ、パンチラビショカパンモロじや…」

「…青と白のストライプ…しかもウサギの1ポイント…ハアハア」

まあ、それは束謹製を意味するのではあるが…
勿論、そんな事を気付く一夏でもなれば、例え気付いたとしても
今の一夏には、些細な問題だろう。

「一Jの様子じやと、明久も自分の姿は見えておるまー…」

秀吉の推察通り、明久はゲーム（今は設定）に集中する為、視覚や
聴覚などの外部モニター系のセンサーは、全て回線を切っていた。

そして秀吉は、田線を前方斜め下に向け、

「しかしのう…至近距離で座り込み、かぶり付きでガン見するのは、
ハーフパンツでもいいかと思つんぢやが?」

(真実を知つたら、かなりのダメージを受けるハーフパンツ…いや、)

秀吉は少し考へ

(むしろ開き直り、"新たな世界(笑)"に一步踏み込むやもしぬな…)

それを想像すると、少し楽しくなつてしまつ秀吉であつた。

それにもしても、何故いつまでガン見されてバレないのか?

勿論、束謹製の”アキちゃん専用特殊下着”の影響だ。

具体的な表現は避けるが…

取り敢えず、フルオーダー・メイドで作られたそれは、特殊な光学迷彩があるいは量子工学的な何かは不明ながら、無駄にIOSのロアに匹敵するハイテクが使われており、何といつか…

【男の分身、息子、魂】的な何かを全く目立たなくさせるのだつ…！

ちなみにブラには、薄くて小さなパットが入つてゐるのだが、そのパットの中身はただのシリコンではなく、ぱんつの【欺瞞システム（笑）】にエネルギーを供給するシステム（表面体温をエネルギーに変換してゐらしい。だから付けるとヒンヤリする）になつており、必ず上下セットで装着するよつ、束と怜に（お小遣いを盾にとられ）厳命されていた。

まあ、他にも生体電流を応用した【ホルモンバランス精密調整システム】のような物も搭載されてる噂はあるが…（汗）

まあ、束のチート技術以外にも、明久は1~3歳の時に召喚（笑）され、思春期（第二次性徴期）のど真ん中に、ウサギと実の姉の手（悪巧み）により成長を抑制＆調整が施され、少年から男へと成長する時期に身心共に…

【男の娘】

として完成してしまつた事も、大きく影響してゐるだろ？…

しかし、明久は【年頃の女の子のような羞恥心】を何気ない洗脳（笑）で植え付けられたにも関わらず、決して『えられなかつた物がある』。

それは、

【ぱんつを短いスカートでガードする方法】

だつ！！

だから、明久はかなり（性的に）危険なレベルで無防備なのだ。

一夏は、秀吉の手前からかまだよく耐えてる方だと言えよつ。

実は、明久の無防備さについては責任者にコメントが取れてるので、蛇足ながら公開しておこづ。

メタウサ（メタル・ウサ）

『だつてパンチラつて萌えるじやん』

永遠の17歳

『ぱんつを見られたと理解した時の、あの恥ずかしそうな顔がまた萌え萌えです』

君らつて一体

いや、取り敢えずグッジョブと言つべきか?

少なくとも一夏的にせよだらけ。

秀ちゃんは心底呆れながらいつくんを見て、

「あえて、”何を？”もしくは”どうだ？”とは聞かぬが…お主、人としてかなりギリギリのラインに立つておるぞ？」

「フツ……やりたい盛りの男子中学生なんて一皮抜けばこんなもんさー
と、手の平で額を押さえてニヒルに笑う……通称”ルル（ゼロ）のポーズ”をキメる一夏に、

「格好つけてるとい悪いがのう…それを言つなり、”一皮剥けば”

「失礼な！　俺は既にムケているつ――」

織斑一夏…

やはり、ストレートな意味で【バカ】であった…

部屋に白衣を着た研究員達が部屋に駆け込んできたのは、ちょうど
その時だった…

【Episode00】第6話 "・使用機体のパラメータって、チコ

皆様、"J愛読ありがとうございましたm(—)m

編集可能文字数と時間の都合で、明久の操縦スキルは次回になってしまい、読者様の反応が怖い暮瀬です(へへ；

ま、まあ明久のHSスキル(+知識)は公開できたので、ご容赦を(へへへへ)

今回は一夏くんが剥き出しの発言をしどりましたが、東&怜の天才最強コンビ込みで如何だったでしょう(・へへへへへ)

さて、いよいよ短期集中連載も終盤に近づいてきました(えつ！？)

可能な限り早いタイミングで、またお会いできる事を祈りつつ(—)

皆様、おはよー♪わこまーす

「最近、時間を問わずに迷惑メールが飛んできて、しかもそのタイミングが【メール投稿不可】の症状が出た最初の日と完全に一致してるので、かなり運営サイドの情報漏洩を疑ってる暮灘です（へへ）」

でも 事実なんですよね（汗）

さて、今回のヘルソーデは…

などというか…サブタイ通りに全編、明久とミズキの最強コンビ（？）の、ISスキルが炸裂します。

「… いかが、明久は I.S 学園に通う意味あるんでしょうか？」
「イドなのに…」（^__^;）

強いて言つなら、シミュレータじやなくリアルでの戦闘経験の獲得かな?

作品的にはフラグ立てとか? (笑)

取り敢えず、明久+ミズキの【力の一部】が出てくるエピソードで

すが、お楽しみいただければ幸いです (o^ - ,) b

時間はまた少し遡り…

再び、明久＆ミズキ・コンビ（？）

「ねえ、ミズキ…」の子、コアの実戦データをフイードバックして、
フィットティングしちゃおつか？」

『ぐつどあいであ〜 幸いこのコアが入つてた前の子も、同じよ
うな特性みたいですから、楽勝ですよ〜』

「おっけー じゃあ、始めよっか」

と、一人と一体が、やけに楽しげに作業を開始する。

「それにも…エネルギー関係にやたら欠陥が目立つなあ。単
一仕様の”零落白天”はある意味チートだけど、燃費悪すぎ（汗）」<sup>ワン
オフ・アペリティ</sup>

と、思わず苦笑いする明久に、

『アキちゃん、どうします？ いつぞ、ワタシのデータを書き加え
て【第一形態】に強制移行させちゃいますかあ？ これだけ燃費が
悪くてブレオングだと、選択できる戦術オプションの幅が狭すぎます

よお？』

ミズキの提案に明久は少し考え、

「う～ん…止めておくよ。ボクの愛騎なら構わないけど、『コアの設定を見る限りまだ”コーラー・プレイヤー登録”が未確定だし、【セカンド・ステージ】にまで移行させねやつと元の設定に戻すのメンディーし…』

そして、ニコリと微笑み、

「ブレオンは、”漢の浪漫”って言ひしねつ」

『”漢の浪漫”ですか？ アキちゃんには一番似合わない単語ですね～』

「ミズキ酷いやつ…」

何やら心和む会話ではあるが、一つ明久の発言に注目して欲しい。

彼（彼女？）は、こう発言していた。

『第一形態まで移行すると、元の設定に戻すのメンディーし…』

と。

そう…面倒なだけで、一言も『できない』とは言つてないのだ。

コレが、”今の明久”の広い意味での【力】だった。

「じゃあ、どう設定しますかあ？」

「ワンオフ・アビリティー【零落白夜】の発動条件／設定を任意変更。未使用時は即時のスタンバイ・モードに設定。能力発動までのシーケンスは、N〇〇〇7～112までをクラスタ・プログラム化。N〇225～289をアーカイブ化。他の運動プログラムとのマッチングを、ランダム・パラレル・アクセス（RPA・隨時並列処理）。開始から発動までを最適／最速化。発動タイミングは、対象エネルギーへの衝突1／10秒前を絶対臨界ラインに設定。スイッチは、パイロットの脳量子波を優先。ただし、センサーに任意設定する以上の強度数値のバリア強度が確認された場合は、強制発動」

『はいはい』

明久から提示される複雑なパラメータ変更をいとも容易く…まるで鼻歌でも歌うように、処理していくミズキ。

普段の言動からは信じられないが、実はかなりの高性能ユニットらしい。

いや、少し違うか？

【次世代騎（2ndセッション）】の雛形となるべく試作された明久の専用IS【トロニティ・ラビット】…
その、『インテリジェンス・サポート・コーシート兼サブ・パイロット』、【名実共のパートナー】として製造されたミズキにとつては、この程度の作業は、比喩でなく朝飯前なのだろう…

『固有兵装の”雪片式型”の設定はどうします？ どうやら自在可変装備…”展開装甲”の試作型が使用されてるみたいですねえ』

「…ねえ、ミズキ」

『はい？』

「もしかしたら、この子…えーと、【白ガ式】って言ひりじこけど、開発に…束ちゃんが関わってるんじゃないかな？」

『展開装甲を使つてるからですかあ？』

展開装甲…技術的には、現在世界各国が躍起になつて開発している【第二世代HS】の更にその先にあるテクノロジー…
言つならば、まだコンセプトすら固まっていない【第四世代HS】に採用されるかもしれない飛び抜けた最先端技術だった。

勿論、こんなチート系変態技術をもつてるのは、世界で篠ノ之束ただ一人であるつ。

「いや、それもあるけどさ…なんていうか、雪片式型の元ネタって、絶対に”ムラマサ・ブラスター”って気がするんだ…」

「ムラマサ・ブラスター」

長谷川裕一著【クロスボーン・ガンダム】に登場する主人公機、"クロスボーン・ガンダムX3"専用のバスター・ソード型の主力武器。巨大な実体剣にビーム発生器を14基（一説によれば15基）内蔵した装備で、全ての発生器を共振させ発生させた"巨大な"収束ビーム刃"は、エフィールド"と敵を切り裂く能力を持っている。

また、エネルギーに指向性を持たせ加速させる事により、並のビーム・ライフルより凶悪な威力のブラスター・ガン（射撃武器）としても使用できた。

「しかも、【レヴァンティン・モード】とかあるし…これって、間違いなく連結刃とか蛇腹剣ってオチだよねっ！？」のどにまでも中一病臭が漂うモード設定って…」

複雑な表情の明久に、ミズキは能天気な顔で、

『まあまあ 実体剣で至近距離、ビーム刃で近距離、連結刃で中距離、ブラスター・ガンで遠距離に対応してるって考えれば、それなりに合理的ですよぉ～』

「それを一纏めにするメリットは？ レンジに応じて武器を一々持ち変える手間は、確かに省けるけど…」

明久は真剣に考えながら、

「手数が増える訳じゃないし、同時に使えないから、結局は【フ

ル・レンジ】に対応してゐる【ブレオン】ってだけなんだけど…そりゃ、近接オンリーよりはマシだけだ

『もし』アーヴ・マスター（製造者）が関わっていたのなら、きっと「技術の根本は中一魂にあるのよ～」とかつて理由だと思いますよお？』

ミズキの的確過ぎる言葉に、つい明久は『によろ～ん』といつ顔になり、

「ミズキ…それ、スッゴく有り得そつ

ミズキはにぱあ～つ つと笑い、

『I-J-Iは一つ、【戦闘用】ではなく、【決闘用】I-Sだつて割り切つちゃいましょう』

「それしかないかあ～」

さて、それは明久が雪片の展開装甲の設定をイジりつとした時のこと…

『I-J-Iから先の設定はは、マスター権限が必要です。マスターキー・コードを入力してください』

と、網膜ディスプレイに表示された文字情報に、明久は面倒臭そうな表情で、

「入力モードは、音声認識。【Welcome to this crazy time】のイカれた時代へようこそ】」

《パスワード、コレクト。よつこせ、”ゲーム・マスター”。機密保持の為に全ての外部情報を遮断。”D・ダナン型防壁”を開けます。以後、ゲーム・マスターの許可があるまで、一切の外部からの干渉は切断します》

明久は内心で「念入りだなあ」と思いながら、

「防壁の設定を一部変更。機密指定情報に抵触しない最低限のモニタリング情報は、継続して開示。ただし、外部からの干渉遮断設定は変更なし」

要するに、こつちから秘密に引っ掛からない情報は流してやるから、外からイジるなという意味だ。

白式のコアに内蔵される管制プログラムは、

《ア解》

とだけ返した。

突然、情報を一方的に流すだけで、一切のこちらからの制御信号や操作を受け付けなくなつた白式に、【管制ルーム】が大騒ぎになつたのは、この時だつた…

* * * * *

【男である筈の一夏に、なぜ女しか乗れない筈のI-Jが反応したのか?】

技術的には興味深く、政治的には重苦しいこの問題を真剣に討議してた技術者や科学者、責任者達に、一夏とは違う意味の【異常事態】が飛び込んできた。

ちなみに、一夏より一つ前に白式に乗つた筈の秀吉が問題なしだされたのは、白式のセンサーが秀吉を【女性】と”誤認”したからだ。

現場の担当官から、管制ルームの一番偉い人まで、全員が「随分と男の子っぽい名前の女の子だな…」と思つただけで、等しく誤認してたから、この時点では誰もミス…

実は、【一夏は一人目の男性 ILS 操縦者】だという事実に気づいて無かつたのだつ…！

もつとも、彼らだけを責める事は出来ない…

そもそも、書類選考段階で、書類担当者が誤記入だと思い、性別欄を【女】と修正していたのだから…

科学者達が駆け付けた時、白式の内部では…

明久 side -

「スラスター開度、角速度、推力、白式のコアデータを参考に最適化。空力データや重力偏差、コリオリ・モーメントもデータ修正。慣性中和装置は隨時連続可変に設定。可変参照データは、ボクの生

体情報モニタリングをメインに

『「ひじやあー』』

これで少しは燃費が良くなる筈だよね？

（あつ、わうだー）

っこでこ…

「ミズキ、外部装甲や内蔵フレームの非応力過負荷部位を性質変更して、”キャパシタ属性”を付与できる？」

『簡単ですよー ワタシにお任せですです』

ミズキ、性格はアレだけど、腕は確かだからね

そして、全ての事前設定が終わって…

「じゃあ、ミズキ…ゲームを始めよっか？」

『はあーい アキちゃん、モードはあー』

決まってるよ

「コード入力…【”Fortis931”】

理由を【】で証明する】

我が名が最強である

『パスワード認識。ISシミュレータ、”シークレット・モード”で起動。【エクストラ・ハード・パーティ】をプラグイン。ゲーム・スタート』

『れつ・ぱりい』ですう』

「目指せハイスクアだよ』

明久とミズキが魅せた光景……

それは誰しも目を疑う物だった……！

【Episode00】第7話 "HBにては珍しへシコアス…』

皆様、『J愛読ありがとうございました』（—）

前回の後書きにもチラリと書きおましたが…

一応、【Episode00】を書き終わると更新を一度停止して、他の作品の連載に戻るなり、頭の中のアイデアをまとめてサンプル書こうかな～と思つてます（^ ^ ;

多分、【Episode00】は次回か次々回で終わり…エクストラ・ステージまで入れても3回くらいで収まると思いますが、最後までお付き合い頂ければ幸いです（o^ - ^）b

それでは、また次回お会いできる事を祈つつつ（—）

【Episode 00】第8話 & part・明久「魅せてあげる…圧倒的なナ

皆様、おはよー♪やあこまーす

本日は徹夜で書いて寝る前に投稿つて感じの暮薙です（^ ^ ;

【Episode 00】 も、こよこのラスト・ステージに近づいてきましたが、今回のヒヒーは…

ひたすらバトル（笑）でしょうか？（^ ^ ;

そして、再びいつくんが「口に正直な発言で輝きました（^ ^ ; b

そして、何気にアチーブに出てくれないのから凄いのまで、【
束、驚異のテクノロジー】の断片…（^ ^ ;

取り敢えず、こんなエピソードですが、楽しんで頂ければ幸いです
（^ ^ ; b

「つおつー？ 何が起じてんつー？」

ISルームに雪崩をうつて入ってきた科学者や技術者達が最初に驚いたのは、突然変形を始めた【白龍】の専用武装【雪丘式型】だった。

【展開装甲】という概念を、束がまだ世に出してない今、機体ではなく武装とはいえ、より巨大に禍々しく姿を変えたソードは、かなりセンセーショナルな光景だつたに違いない。

しかし…

彼らが真に驚くのは、まだ早かつた…

特殊なプロテクトがかかっており、束一派しか解除方法どころか、その存在すら知らなかつたエシミュレーションの【エクストラ・ハード・パーティ】モード…

その中身は、まさに外道であると同時に、厨二魂を擗る仕様であつた！！

スパロボ系ブル&ブルツーを彷彿させるブルティアと2号機”サイレント・ゼフィルス”のツイン・オールレンジ合体攻撃を突破した

オールレンジ弾幕射撃と連携格闘という熱々の展開を退けたと思つたら、やたら強い【無人IS】のステージに、無人ISの動きを見計らうように少しづつバリア強度を削りうと波状攻撃をかけてくるフレンチ騎！

しかも、その距離を問わない攻撃に誘導されたように、進路先に待ち構えていたのが【ウサギマーク】をつけた黒いゲルマンーンの一団！

また、「黒のカラーーリングは伊達じやない！」とばかりに、雑魚騎
じやありえない集団機動連携戦術…【三次元空間向けに練り直した
ジエット・ストリーム・アタック】を仕掛けてくるつ…！

そして、明久とミズキはその全てを…

「飛竜一閃：！！！」

避け、凌ぎ、捌き、逆襲し、叩き落としていた！

（一番燃費が良いのは実体剣、ビーム刀は威力は抜群だけど高威力、連結刃は中射程までカバー出来る使い勝手の良さがあるけど…）

「一度射出すると完全に引き戻して再連結しなければ、剣として使

う事は不能……」

引き寄せる時にも鞭のよつた刃を一騎のエスに巻き付け、シールドを〇にし撃墜する。

（ブ拉斯ター・ガンは思ったより射程は長いし、発射速度も悪くないけど一撃でエスをシールドごと破壊できる威力はない……）

何より射撃武器…白式より切り離されるので、シールド破壊の零落白夜は機能しない。

（武器の一ひとつに別々の特性があるのは良いけど…）

「やっぱり併用できないのは、少しあり辛いなあ～

大画面プロジェクターに投影され、エスルームにいる全員がその画像に見入り、そして一人と一体が繰り広げる、美しくも苛烈な”舞い”に魅了されていた……

ごく一部の例外を除いてだが……

大明書

「おおおおお——つ——」今すぐ脱がしてプチ込みてえ——つ！

どうやら一夏が魅了されてるのは、全く別の代物らしい。

いや、勿論かぶり付きでガン見を続行してるのは、明久の一部が捲れあがり、チラッではなくモロ氣味に見えてる青と白のストライプが眩しい縞パンなのだが。

人間というのは運動をすれば、当然汗をかく。

明久も例外ではなく、いくらゲームとはいえあれだけ激しくプレイをすれば発汗もする。

そこで、冷静に考えて欲しい。

もし、明久が履いてるパンツが市販品同様に”ただの布切れ”であれば、その…男のシンボル的な何かがマリモツ「リと浮き上がりてしまうのだが…

しかし一度情熱を掛ければ、そんな半端仕事をしないのが篠ノ之束といつ人物だ。

ウサギのワンポイントがトレーデ・マークの【束謹製アキちゃん専用下着セット・ボトムパーシ（ぱそつ）】は、明久の発汗を感じするとそれを吸引すると同時に外からの見掛けを…

【女の子が濡れた状態】

を精密にハイライトして、再現する。

具体的には、いつからいつ透けるとこいつか、スジか浮いてくるとこいつか…

まあ、エロゲー好きな読者諸兄にはお馴染みの、【モザイクがかかる一步手前のシーン】と並んでゐる。

まあ、そんな訳でいつくかが暴走するのは無理の無い所ではあるのだが…

しかし、秀ちゃんは最早呆れるとこより、明らかに体温を感じない視線で…

「一夏よ…正直なこと、自分に正直で有ることは確かに美德じゃとワシもおもうぞ。あえて何を脱がし、何を何処に突っ込むかは聞かぬ。じやが…」

秀吉は、更に視線の温度を下げて、

「万が一にも実働させてみよ… ヌシとの友情は一撃死、縁えんもこれまでじゃぞ?」

（それにしても…）

秀吉は、視線を漢臭と獸臭を漂わせる一夏からプロジェクトに移し、

「明久よ…お主、この二年間ひどいほどに【修羅】になりおったのじゃ…?」

役者であり、舞台の上ではいつでも真剣勝負な秀吉には、どうしても分かってしまうのだ…

明久とミズキの【舞い】が、明らかに”ただのテスト・プレイヤー”として培われてそれとは異質…いや、別次元のそれであることに。

（まるで、実戦武術の真剣勝負でも見てる気分じゃわい…）

秀吉の背筋にゾワリとした感触が走った…

一方、自分が盛大にパンチラ…もとい。パンモロしてゐる事に気付いてない明久はと言えば…

「ハアアアーーーッ！…」

”ザンツ！“

ゴーフーン・ガンダムばりに”変身”したゲルマンのボス騎を、
”イグニッシュン・ブースト” + 零落白夜のコンボで倒したところだった。

「ミズキ…ハア…あとエネルギー残量は…あふつ…」

『あと180つでっこですね…それにしてもアキちゃん、今の呼
吸は色っぽかったですよお～』

何凧までもブれないミズキに、

「あはは ミズキは余裕だね?」

『そりやそつですよ～。だつて細かい出力や推力調整、慣性パラメータの微調整に照準の自動追尾とかしかやることないのです！ ウタシ、ちよつとパンパンなんですよ～！』

明久はクスッと笑い、

「白式は展開装甲を使つてこるつて言つても【リストセッション】の機体だからね。ミズキみたいに多機能高性能なサポートAIの搭載は前提にされてないんだよ」

『アキちゃんに誉められるのは嬉しいですけど…やつぱり、ワタシの真価を發揮するのは、【FFD】や【マルチモードNGフィールド】…そもそも、【ZGドライブ】が必要な事を思い知らされちゃいましたあ～』

ミズキの語る謎の単語…

その何処かで聞いた響きの単語ではあるが、その謎は何れ明かされる…かもしれない。

ただ、明久の愛騎に使われているらしくそれは、世界のどこのHSにも使われておらず、また会話から察するに展開装甲よりも更に新しい技術と思われる…

「でも、借り物のHSでここまでこられたのはミズキのおかげだよ

ミズキは本当に嬉しそうに、元気

『いや～ん そつ言つてもらえると、頬が緩んじゃこますよ～

と、一頃り喜んだ後、

『でもアキちゃん…エネルギー残量から考えて、恐らく次の【銀の
福音】シルバー・ゴスペルがラストバトルになるかと思いますよ？ 残念ですけどお
…』

「わかつてゐる…だから、最後はエネルギー限界まで派手にやるわ
」

『いじじやー れつ・つ・ぱーいですう』

明久とミズキの擬似的な戦いは、じつやり最終局面を迎えてある
ようだった。

【Episode 00】第8話 "明久「魅せてあげる…圧倒的な力…」

皆様、「」愛読ありがとうございましたm(—)m

お待たせしたバトルシーンは、実は【Episode 01】以降の見せ場も考え、わりとはしょり気味だったりしますが、それなり程度には迫力が出てるといいな」と、少し不安な暮瀬です(へへ；

さて、これで【Episode 00】のメインフレームは大体終わり、いよいよラストに雪崩れて行きます(○^_^;)b

次回は多分、ラストスパート
最後までお付き合い頂ければ幸いです(—)

【Episode 00】最終話 "なお仕損じて死して屍拾つ者無し

皆様、こんにちわー

本日は大変よく寝てしまい、執筆時間に慌てた暮灘です。

唐突ですが、IBの【Episode 00】は、今回で最終話です。

もしかしたら、幕間やエクストラ・ステージとか、暮灘には珍しいキャラ紹介とかがそのうちあるかもしませんが、取り敢えず本編はラストです。

というか、【銀の福音】がラストの敵シミコレータですが…つてどう考へてもTV版のパロディだよなあ～と（^_^；

さて、今回は…

ラストらしく少し熱い展開です（o^_^）b

かなりネタ的な解説を入れながら、明久+ミズキの戦闘力が弾けます

そして、束の驚異の技術力が…というか、原作束より【IB束】は

遙かにふざけた人間なので、その辺りはお覚悟を（笑）

では、【Episode 00】のラスト・バトル！
お楽しみ頂ければ嬉しい限りッス（o^_^）b

【Episode 00】最終話 "・なお仕損じて死して屍拾つ者無し

『四方八方に無差別弾幕射撃なんて…ナチュラルの分際で生意気なんですよー』

「ミズキ、それを言つならボクもナチュラルなんだけど?」

『アキちゃんは、【男の娘】という人類が進化の果てに見つけた第三の性！ 革新した人類の姿【いのべいたあ】なんですね～』

「それって言い方変えたら僕に既存の性別が該当しないって事だよねっ！？」 それじゃあ、ボクはイノベイターじゃなくて、イノベイドだよ…」

『似たような物なのです
の狼煙にならんことを！
願わくばこの戦い、人類の新たな創世
オール・ハイル・男の娘ですですう』

「そんな新時代やだあ～～～つ！」

誤解のないように書つておくれ。

シニアレータの中ではあるが、現在白式は【銀の福音】と交戦中だ（一?）

そして、ミズキがハイになつてゐる理由も…まあ、分からなくも無い。

今までやつて來たISへのメカニカル・サポートは、何もミズキでなくとも同程度の戦闘経験を積んだISコアと、十分なISへのフィーティングがあれば実現可能なのだ。

普段は、愛騎【トリニティ・ラビット】で、明久と脳量子波を媒介する【フル・シンクロナイズド・フラッター・コントロール（完全同調制御）】で、【FFD】を始めとする一部の武装のコントロールや【マルチモードNGフィールド】の制御全般…名実共の明久のパートナーであり、ISトリニティ・ラビットの”一人目のパイロット”である彼女（？）にしてみれば、あまりにもどかしく歯痒かつた。

そんな戦闘的欲求不満たまりまくりの状況で、麦野沈利の”電子崩し（メルトダウナー）” + 拡散支援半導体 シリコンバー か、はたまたフェイト・テツサロツサのフォトン・ランサー・ファランクス・シフトかつて大量の光矢の一斉弾幕射撃…

銀の福音本体の機動予測に加えて、その弾道1発1発を予測し回避パターンを算出、針の穴のような進撃路を演算するなんて、

『燃え燃えキュンなシチュエーションです～』

になるわけである。

凄まじいまでの激戦…であった。

銀の福音は、ガンダムUCで例えるなら、シナンジュの運動性にクシャトリヤの火力や防御力を合わせたような機体だ。

対して、白騎士は機体性能から言つなら、【NZT-Dを封印されたゴニコーン】のような物である。

それでも戦闘が拮抗しているのは、一重に明久の操縦技量の高さと、ミズキの演算能力の高さ、何よりも一人と一体のコンビネーションの良さ故だつた。

参考までに書いておけば、シミュレータ（明久はゲームだと思つているが…）が大半を占めるとは言え、一人のIS稼働時間は、この三年間で軽く3000時間を超える。

つまり、1日3時間はISに乗つている計算になる。

その時間は即ち、可能な限り現実に近い”疑似”とはいえ、膨大な戦闘経験値として明久に蓄積され、ミズキに記録されていた。

果たしてIS学園に通う何人が、IS稼働時間1000時間を越えてるのだろうか？

参考になるかどうかは分からぬが、相当訓練に熱心に訓練を行う国

家の戦闘機パイロットでも、年間飛行時間は300～350時間程度だろう。

それにして…である。

凄まじい性能”未知の敵（この時点では、銀の福音はまだ稼働実験段階で、情報は公開されていない）”と交戦中の白騎士…

【設計上、有り得ない性能】

を示す白騎士との戦闘という戦術的側面にのみに目を奪われる技術者や科学者の中には、恐らく本当の意味で【エクストラ・ハード・パーティ】の意味を正しく理解する者はいないだろう。

読者の皆様の多くは、実はISのコア同士が誰にも気付かれずネットワークを形成し、【内緒話】をしてる…という”噂”は、ご存知だと思つ。

そして、”この世界の束”は、愛しい我が子（笑）達の為の【チャット・ルーム（お喋り部屋）】…ISコア精製技術を応用し製造された、コア・リンク・ネットワーク専門の中央サーバ・システム…

その名も、

【アッカン・ヴェーダ・システム】

である！！

言つまでもなく、こんな人生と人類をナメきつた名前を付けるのは、
製作者のメタル・ウサミミしかいない。

ちなみにであるが…

明久専用IS【トヨーティ・ラビット】の解説の中では、”NG”や
”NG-T”という略語が出てきたが、それも…

”NG” 『なんか・ガンダムっぽい』

”T” 『束ちゃんが作ったぴょん』

例えば、【NGドライブ-T】を正式に書くと、

【なんかガンダムっぽい機関 - 束ちゃんが作ったぴょん】

となる。

”この世界の篠ノ之束”をナメるなれ…

この厨二精神を魂の奥底にまで刻んだ女科学者は…
取り敢えず面白やつな事が大好きなのだ…！！

話を戻すが…

【エクストラ・ハード・パーティ】モードとは、アッカン・ヴェーダに集中するHUGOのデータを元に、

【現存するHUGO各国各勢力が現在開発中のHUGOが”近い将来に持つ性能”を予測演算し、それを現在登録されてる最良のパイロットが操縦した場合をシミュレート】

したモードなのだ。

無論、そこに束の厨一魂と遊び心に溢れた味付けや演出ががなされてるのは、言うまでもないが。

「もうエネルギー残量が心許ないし…」//ズキ、ちょっと裏技だけど次で決めるよ?」

『わっかりましたあ～』　　”Hマージョンシー・ブースト（緊急加速）”ですねえ?』

「うん…それ以外に手が無いなら、躊躇の必要は無いよね」

”Hマージョンシー・ブースト”とは、最低限のシールドのみを残し、残るエネルギーの全てを”イグニッシュョン・ブースト”に添加し、最終加速を行うといつ…

【届かない一歩を届かせる為に、防御を極限まで削る一か八かの加速】

だつた。

「//ズキ、”零落白天”の発動は、命中の1～100秒前レートに調整頼める?」

『いいですけど…かなり、シビアなタイミングになっちゃいますよ～?』

「構わないよ。ここは、ゼンガーリー親分の心構えで仕掛けるよ」

『一意専心、一撃必殺の心構えですね～』

イグニッショ n・ブーストで初期加速で突つ込み…そして、

「シールドを前方30度を残し、全て解除！」

『”エマージェンシー・ブースト”、点火あ～』

その加速は、【銀の福音】の制御プログラムを僅かに上回っていた…
そして、その僅かな誤差が、さつきまで届かなかつた切つ先を届か
せるつ…！

「いっけえーーーつ…！」

『必殺”雲燐の太刀”ですう～～～…』

”ガツンッ！～！”

「『チエストオオオーーーツ…！』

「ボク達に…」

『断てぬもの無しなのですう～』

”Vooooooooom!!”

空中で飛散する【銀の福音】…

それをバックに白いボディを紅い炎に耀かせる白式は、あまりにハマっていた。

そして、白式に浮かぶ…

【シールド残量：0 エネルギー残量：0】

の文字。

そう…

結果的には相討ちでゲームは終わったのだった。

「明久…魅せてくれるではないか…」

秀吉は、ただ静かにそつ吐き…

「ふぬつ！」

“どげしつー”

「つおぼつー？」

取り敢えず、一夏の後頭部に踵を落とした。

そして、ぐ〜りぐ〜り踏みながら、

「一夏、明久を視姦するのはそこまでぢや。そろそろ正氣に戻るが良いぞ？」

…誰ですか？

今、『秀ちゃんに踏まれるのは、寧ろい』褒美ですつー…』って言つたのは？

先生、怒らないから手を挙げなさい（笑）

ネタはさておき…

結局、ゲームを終えた明久は質問責めにあい…

『ボク、束ちゃんのところのＩＳ開発スタッフなんですよ～』

と、身分を明かすしか無かつた。

ただ、あまりしつこくなら無かつたのは、どうやら内閣府から飛んできた役人が、

『これ以上の詮索無用&他言無用をお願いします』

と、最大限の圧力をかけたからだつた。

詮索無用はさておき、他言無用はあまり意味が無かつた。

何故なら、解析しようにも発表しようにも…

ＩＳ白式以外の外部に記録されていた戦闘ログや戦闘時の画像データが、気が付いたら残らず消失していただだ。

政府の役人により、結局はその場は解散となり、明久は政府が用意した”日本一高級なホテル”に案内された。

そして、72時間後…

「ほわつとつー!？」

「なんじゅとつー!？」

「何故につー?」

吉井明久、木下秀吉、織斑一夏の三人は別々の場所で、ほほ同時に受け取った通知を見て、三者三様の驚きの反応を示した。

その通知には、それぞれの名前の下にこう書かれていた。

【上記の者を、HS学園合格とする】

「「「ど・う・し・て…」」こうなつたあ〜〜〜つ…!…?」」

その日、少年三人…

厳密に言つなら、男の子一人と男の娘一人の絶叫が響き渡つたといふ…

さて、誰もが知る歴史とは違う方向に歩み出したこの世界…

果たして、世界はどんな歴史を刻むのか？

答えは、ウサギだけが知っている…かも知れない。

「ニョフフフ… 世界を大いに盛り上げちゃうぴょん」

「フフフ… 楽しみですねえ」

メタルなウサギと、クールなきぬーなお姉さんはクルツと後ろを振り返り、

「「ねえ！ みんなあ (皆さん)」」

「「「 全ては面白い世界創造の為に…！ ジーク・男の娘…！」」

世界は…大丈夫なのか？（汗）

【エロゲー】最終話 & パート・なお仕損じて死して屍拾つ者無し

皆様、「J愛読ありがとう」「やれこましめた」と――

最後はマヂにバトった明久とミズキは如何だったでしょうか？

そして、ラストに明らかに原作と違うノリで暗躍（？）を宣伝する
メタウサ（笑）+メタウサ・ファンクラブ（？）

いや～、書いてる作者が言つのもなんだけどカオスだなつと（・・・
ー^A

なんか色々とややこしい感じの話になりますが、もし【エロゲー
sodeo】があれば、その時もどうかよろしくお願ひします（――）

それでは、またエクストラもしくはネクスト・ステージでお会いしまじょう（○^ - ）。

では、またいつかお会いできる事を祈りつつ…改めて、J愛読あり
がとうございました（――）。

『キャラ紹介』 といつも、ヒュウガ先生の真似をして"・なれり。

皆様、こんばんわ～

えつ？ まさか【エビ】が連載再開つ！？

と、思つた皆様すみません(――)

連動企画であるヒュウガ先生の【IS×禁書】作品にキャラ紹介がありまして、つい暮灘も書いてみたくなりました

といつのが半分。

：：：：：

： 実は、今日は【バカ禁書】以外の作品の筆のノリが悪くて、変わつた物を書いてみたくなつたのが、もつ半分の本音です(泣)

内容はかなりフザケてます(。o^・、)b

といつかネタだらけです(笑)

今回は設定資料なので後書きはありませんが、読者の皆様の「」意見

「感想ツツ」「等々を心よりお待ちしております（――）

『キャラ紹介』 といつも、ヒョウガ先生の真似をして"・なれり。

吉井明久

種族

男の娘

バカ・ジャンル

”天然”と書いて【バカ】と読む。

特徴

悪の科学者（笑）の篠ノ之束と実の姉の吉井怜に、中一になる一歩前に無修正画像で脅迫（？）され、渡米。

そこが本当にアメリカどうかも分からぬうちにゲームのテスト・プレイと騙されISに乗せられた。

そして、日々の洗脳…もとい。調教…じゃなくて躰と教育、加えて食材に混ぜられたナノマシンのホルモン調整その他諸々の要因により、シヨ カーに改造された怪人のごとく立派な【男の娘】として成長した。

イカ…じゃなくて以下がその性徴、ぶりである。

（1）身長が12歳時と同じ

実は今の秀ちゃんより1cm低い。

(2) 身体的特徴

細く丸みを帯びて、喉仏がない。ぶつちやけ脱がしても後ろから見ると女の子と見分けがつかん。

また、"シンボル"は普段はかなり小さいが、性的に興奮したり使用時にはノーマル・サイズになるので、膨張率が凄いのだろう、きっと。

(3) 声がくぎみー

喉仏が無いのと、体格的な変化で声変わりするビリビリか高くなつたらしい（秀ちゃん談）

ぶつちやけ、【ハガレン】の鋼の弟声です。

(4) 性感帯が…

"後ろ"が一番感度高いといつ噂がある（一夏、大喜び？）

ISテクニック

実は、シミコレータを3000時間以上こなした歴戦。

しかも、ミズキと愛騎【トリーティ・ラビット】の組み合せなら、【エクストラ・ハード・パーティ】モードで、"世界にある全てのISを倒した後"に、ラスボスの常に精神コマンドがかかつてゐるような"白騎士(千冬ニアータ)"と、悪くても相討ちに持ち込める腕前がある。

また、束に『ゲームの攻略本だぴょん』と本当に攻略本っぽく編集されたIS関連資料を読み漁り、ミズキにもインプットされるそれをゲーム中(シミコレータ中)にも読んだりしてた為に丸暗記。

多分、IS学園3年間で習う程度の内容は、楽勝で全て頭に入ります（＾＾；

というか、IS学園で一番ISに詳しいかも…

性格

温厚で温和、柔軟で純粹で無垢。
押しに弱い。

つまりは、”受専”。

加えるなら、束に騙されてた事（ゲームじゃなくてISという兵器に乗せられてシミコレータをプレイしてた）も、”些細な事”と思つてしまつぐらい能天氣でお氣楽。

ただ、束に仕込まれた【厨一の魂】は強く継承されていて、ISに乗るとそれがかなり表面化する。

好む異性／同性のタイプ

異性は原作準拠なら第かなーと（＾＾；）

同性は特に決まってはいないが…もう一度書くが押しに弱い。

備考

実は隠しシナリオで”明久ヒロイン・ルート”が存在していた。

ただ、それをやると明久の女体化の交換条件に手先になるように誰かさんが束に迫られるので…

メガツさカオスに(^—^ ;)

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

木下秀吉

種族
男の娘

バカ・ジャンル

”淫媚”と書いて【バカ】と読む。

特徴

バカ・トリオの中では貴重なツツコミ役。

加えるとH 担当。

原作より性的に素直な性格をしていて、

『掘るのも掘られるのもワシは両方イケるぞい』

』

と豪快な発言をする漢らしい一面を持つ男の娘（笑）

役者なのは原作と同じで、その為に鋭い観察眼と洞察力を兼ね備える。

見た目は原作と同じで愛らしい

ついでにバリバリのガチ・バイセクシャル

ISテクニック

【イージー・モード】とはいえ、初めてやつたISシミュレータでブルティアのクセを見抜いて倒し、“甲龍”と相討ちになるなど先天的に高い能力を魅せた。

これが後に東より【トリニティ・ラビット】と同じ“2ndセッショング”IS…別名【厨二魂に溢れたメタウサ印の純戦闘用IS”夢芝居”（仮称）】を受け取る遠因となる。

性格

明久押し倒して強引に唇奪つたり、一夏の脳天に踵を落とす容赦無いツッコミを入れたり、意外としつ気が強い。

本人の言葉を信じるなら受けも攻めもイケるらしい。

好む異性／同性のタイプ

異性も同性もかなり守備範囲が広そうな【性的ユーティリティ・プ

レイヤー】臭いだが、

『好きな女性のタイプは姉上ぢや』

と言い切るあたり、存外シスコンなかもしれない。

備考

IS学園に入ると、性的な意味で行動が派手になるかも（主に明久とか明久とか明久に…）

織斑一夏

種族

やりたい盛りの性少年

バカ・ジャンル

”単純”と書いて【バカ】と読む。

特徴

バカ・トリオの黒一点（あるいは青一点）。
つかかってくる女尊男卑主義者を感じると徹底的に迎撃する【KO・D（勘違い・女を・デストロイしちゃつぞ）】プログラムを搭載していて、それが発動した場合、トドメに対象の顔面を靴底で”そげぶつ！”する【高慢殺し（プライド・ブレイカー）】が使用できるようになる。

何気に古式武術の達人で、ぶっちゃけ生身戦闘なら1年最強かもしない（・へーへーA）

ISテクニック

原作と似たりよつたり。

ただ、本人の肉体性能が高いのと、明久がイジッたお陰で愛騎になる【白式】の燃費や反応速度が大幅に改善され、拳動も適正化。更に【雪片式】もリミッターが解除され実体剣だけでなく”ビーム刃／連結刃／ビームガン”の3モードが追加された為に、せつしーや鈴とかが涙目（笑）

いや、まあ原作展開にはならないだろうけど（へへへ、

性格

裏表のない単純で普通に健全で健康的な厨房的スケベ。
”主義者”以外には割と普通に一夏です。

好む異性／同性のタイプ

千冬に頭が上がらないシスコンなのは変わらないが、モロパン明久への欲情っぷりをみる限り、【ちびっこひんぬー】も十分守備範囲らしい。

頑張れ鈴

一夏の前で裸エプロンで酢豚を作れば、2年生では”お母さん”キヤラだ（○^ - - ）b

備考

うーん…行動が主人公っぽくないかも（笑）

ただ、明久とのイベントは多そうな予感（^-^；

【いんたあ みつしょん】 『立ち上がり宿命受けた&おひよち・男の娘（い

皆様、こんばんわー

スランプといつ程ではありませんが、イマイチ筆の乗りが悪い暮灘です（＾＾；

いや～、おやかの【H.B】アップです（＾＾～＾＾A

いや、こうこうスッキリしない時は、ガチでおバカな作品が書きたくなるもんです（＾＾～＾＾；

さて、インター＝シ＝ションの本来の意味は、【幕間】なんですが…

あのメタル・ウサ＝＝＝（通称：メタウサ）が出てきますっ…（爆）

そして、天才で天災だけど…バカです…！
オマケに厨二病です（＾＾；

とにかく、ノリがおかしいです（笑）

そして、【この世界の篠ノ之介】の目的が早々と判明します（＾＾；

（＾＾；）b

取り敢えず、こんな感じのエピソードですが、お楽しみ戴けたら幸
いです m(—)m

貴方にメタウサの加護が有りんことを…

えつ？ 要らない？

【いんたあ みつしょん】 『立ち上がり宿命受けた"・男の娘（い

明久、秀吉、一夏の三人に”IS学園からの不幸の手紙”こと【合格通知】が届いてから数日後…

世界にセンセーショナル&エキセントリックなニュースが飛び交つたつー！

なんと同時に三人の【男性IS乗り】が出現したというのだー！

しかし、会見場に姿を表した三人…

二人はIS学園で急増された男子用制服で、一人はまぎれもなく超ミニに改造されたIS学園の女子用制服をバッチャリ着こなしていた。

まあ、一人は間違いなく少年だろ？
うん。

もう一人は、どう見ても男性用制服を着てる、ショートヘアの【男装した女の子】だ。

そして、一番背の低い人物…

白いレースフリフリのリボンを”不思議の国のアリス”風にミルクティー色の長い髪に巻き、ブラウンの優しげな大きな瞳にほつそりとした手足…

今にも折れそうな華奢な首筋に、可愛らしく整つた小さな顔。何より一部の記者を喜ばせたのは、マイクロ・ミニを履き慣れて無いのか、歩く度にピンクと白のストライプのぱんつがチラッチラッと見える事だ。

可憐な美少女 + 編パン + チラリズム = 漢の浪漫！！

は、どうやら万国共通らしい。

【女尊男卑】なる、そして根拠の無い虚ろな思想が広まって以来、男の夢である【可憐な美少女】というのは、すっかりリアな存在になってしまったのだから尚更だろ？。

いや、それはともかく…

”彼女”を見て【男】と認知する者がいるのなら、今すぐ田か心か頭のお医者に逝くべきだと思つ。

多分、もし”彼女”がEIS学園の生徒でなければ、即座に何者かにお持ち帰りされてしまつこと請け合いだ。

ちなみに、その最有力候補なのが、さつきからチラ見…いや、視姦してゐ一夏と秀吉のよつな氣がするのは、何故だろ？。

そして、入ってきた三人が着席（長い髪の”少女”のぱんつは丸見えだ。多分、”彼女”にカメラが集中してる理由はそれだ）すると、司会らしき眼鏡できよぬーの女性は、

「織斑一夏くん、木下秀吉くん、吉井明久くん…以上三名が、この度確認された人類初の”男性”ISパイロットです」

記者会見場は一瞬、シンと水を打つたように静まり帰つたあと…

さん、はいつ

「…………うそつけえええ——————つ…………」

」

その時、会場にいた全ての人間、会見を観ていた世界中の人々の全て意識が、一つのツッコミに集約された…

これが、世に元詠【シンクロニシティ】といつ物であらうか？

違つかもしんないけど（笑）

「ふえ～んつ！ そんな全力全開で会場総ツツゴミされても困りますう～つ！！ 私だつて信じられないし、信じてないんですよ～～つ！！」

（（（（（お前も信じてないんかいつ！！？（（（（（

涙目のデカチチガネつ娘を憐れに思つたが、流石に言葉には出さなかつたが、会場の意思は再び統一されたという。

そして、会場がカオスに支配されかけた時…

『ここやははははははつ！！ 驚いたかねつ！？ 久しぶりだね～、

会場……いや、世界中のモーターに、ピンク色の髪にメタルなウサミニをつけ、ついでに巨大な胸の前を強調するよつに腕を組んだ、タレ田の女性が姿を現した。

『我が名は”イオリア・シュベンベルグ”！ 世界に革新をもたらす者なり』

さんばいつ

「「「「「篠ノ之^{しのの}束^{たばね}」じやんつ……」」「」「

三度、世界の意思は統一されたところ…

* * * * *

『 さてさて、なぐんでこの束さんがわざわざ一般ぴーふるの前に姿を現したのかを説明せねばなりませんなあ～ 』

「 ツツ ミニを軽くスルーしながら何か自慢気に言つ束に 一 夏は…

「 なにやつてんだよ束さん…」

激しく頭痛を感じていた。

しかし、身内(?)のキテレツ行動に頭痛を感じる一夏より、更に切実なのが…

「 束ちゃんあ～ん！ なんでボクだけ女の子の制服なのさあ～っ！！ しかも、いんなマイクロ・ミニだしい～…」

顔を真っ赤(実は恥ずかしかつたらしい)にして涙目、モニターが上にあるので必然的に上目使いで「う～～～～～！」とか唸つてる明^{アキ}ちゃん久のなんと見事な萌えキャラつぱりよ。

それを満足そうに束は見ながら、内心で『この顔が見たかったんだぴょ～ん』とか思いつつ、

『 それは当然、束さんが工学園に圧力かけたからだぴょ～ん 「 アキちゃんに束さん&あーちゃん謹製の【すぺしゃるな制服】を着せないと、今度は2万発のミサイルをハッキングして、同時に工学園に撃ちこんじやうゾ 』 ってね～

「いや、それは圧力じゃなくて既に脅迫と言つものさやなかのつかの」

の「」

と、当然過ぎるシッ ハリを入れる秀吉に、画面の中の束は一ソマツ微笑み、

『君が尊の”秀ちゃん”だねえ、
話はアキちゃんから聞いている
よ、それにしても…』

束は実際に楽しげに、

『聞きしに勝る、見事なまでの”男の娘”つぶりだね』

「それは喜ぶべきとかの」
「それとも悲しむべきとかの」
「かや
わつか？」

世紀の天才にして天災、忘れてもらひないのにしゃしゃり出てきた篠ノ之束に何事もないように時代がかつたジジイ言葉をかます秀吉は、何気にGooDな度胸をしてると思つた。

『もへちらん、喜ぶべきとかの なんせ、秀ちゃんも”新しき時代の担い手”^{イノベイター}、私達の定義する【ザ・カード・ジョンダー】、即ち《第三の性》の資格があるって言つてたんだから』

「束ちゃん、どういと？」

つい数日前まで束の（実は）アジト…と呼ぶには余りに大きな、【学園都市】と同等規模の”地下都市”^{ジオフロン}にいた明久だったが、聞き慣れない言葉に目をパチクリさせる明久。

ウルトラジットでも良いことだけど、明久がいたのは本当にアメリカだったのだろうか？

作者は絶対に違う気がする（笑）

『フツフツフツ…アキちゃん、この束さんがただの趣味でアキちゃんを【完全無欠の”男の娘”】に改造したとお思いかね？』

「え？ 違うの？…？」

『99%は趣味だぴょ～ん』

アキちゃんは諦めたように溜め息を突いて…

「だよね…束ちゃんだもんね…つん、そうだとは分かつたけど…」

『そお～んな可愛い、今にも涙が零れそうな瞳で、アキちゃんてば束さんを誘つてるのかな～』

「束ちゃんとは、何だか言葉が通じない気がしてきたんだよ…」

しかし、束はフフン とただでさえ大きな胸を更に大きく張り、

『束さんの趣味はバカにできないぴょ〜ん なんせ、”今の世界”は束ちゃんの趣味じやないから、趣味で世界を作り替えるつもりだしい〜』

「 「 「 「えつ？」」」

その束の発言に、明久だけでなく、秀吉に一夏、そして世界をフリーズさせたのだった…

『アキちゃん、秀ちゃん、ついでにいつくんと世界も聞いちやつてね〜』

「俺はついでかいっ！？ といつか俺と世界を等価値みたいに言わないでくれって…」

一夏は何とも複雑な表情をするが、束は「わやわや」って感じで、

『等価値だよ～。みんな脇役とかモブだもん あつ、いつくんも”男の娘”になってくれるんだつたら【束さん維新】の主役に抜擢してもいいぴょ～ん』

「いや、それどう考へても俺のキャラじゃないし（汗）」

『残念だな～。いつくんはイノベイターに等しい【ザ・サード・ジエンダー】になってくれないんだ～』

「束ちゃん…ボク、バカだから話がよく見えないんだけど…」

「安心せい、明久。ワシにも全く見えんぞい」

すると束は、【新時代の主役】になるかもしれない一人を見て、

『束先生は酷く”絶望した！”んだよ。【女尊男卑】なんてくだらない価値観を許容する世界にね…』

束は、どこか遠くを見るよつこ

『束さんは最初、IISを【宇宙で活躍できるマルチフォーム・スース】として開発したんだよ…そして、そのスペックを知らしめれば宇宙開発が進んで、ジオニックでクロスボーンでザンスカール的な

人達が出てきて、世界は益々面白おかしくなると思ったのに…』

プルプル震える束に明久は、

「東ちゃん…最初の二つはともかく、ラストのは流石のボクでもどうかと思つよ…？」

だが、明久のツッコミを聞いたらやいねえ束は

「ふみやつー? 束ちゅんがマヂギレしたあーつー.」

素直に怯える明久を素早く背中に隠す——夏と秀吉。やつぱり明久がヒロインポジか？

『人の最高傑作を、『男に復讐』なんて愚にもつかない目的で使つていいだなんて、誰が言つたあーーーつーーつて訳で、まず【IS】を使えるのが女だけ】なんて束さんが言つてもいなイクソ理論に踊らされ、【男と女が戦えれば…】なんて束さん以上のイカレた議論する女にまず絶望したのですよ』

そして会場を見回し、

『そして、そんな腐れた理屈に我慢して、EVAにすがって生きよう

とする男にも絶望した… ISが使えるつて理由で女が威張り散らす世界が気にくわないなら、いつそISを叩き壊せばいい。そして、IS以上の物を作ればいいじゃん…』

多分、世界は初めて知つただろう。

実はウサギは怒らせると怖いといつ事を…

『束さんは、ISなんて自分の作った物でもない、私が作った禪でふんぞり返つてゐる女の愚かさも、それをよしとして世界を変えようともしない男の情けなさもウンザリなんだよ…だからっ！…』

束は明久を見て、

『従来の性に囚われない、男がかつて持つていいた燃える魂と、IS登場後ぬ女から急速に喪われていつた萌え要素を併せ持つ、『新たな性』^{ネオン・ジェンダー}を創造したんだよっ！…』

そして、高らかに宣言するつ…！

『男にも女にも該当しない、新しい時代の担い手として、【第三のザ・サード・ジェンダー】性【ザ・サード・ジェンダー】…『男の娘』を世界に提唱するつ！！ 我が英知、そして我が思想に共鳴した同胞【はから】と共に、人類に革新をもたらすとつ…』

そして、右手を握り…

『女尊男卑なんてフザケた狂氣【げんそう】、私が男の娘でブチ壊す…』

天を貫くように高々と握った拳を掲げ、

『ジーラ・男の娘！…』

束をとつていたカメラが引き、”演説会場”の全景を映し出す。そこには多くのマスクを被つた者達が、束と同じく拳を掲げ、

『ジーラ・男の娘！…』

『ジーラ・男の娘！…』

『ジーラ・男の娘！…』

『ジーク・男の娘！！』

『ジーク・男の娘！！』

世界は、正真正銘本物の混沌へと放り込まれようとしていた…
のかもしれない。

【いんたあ みつしょん】 『立ち上がり宿命受けた&おおお・男の娘（い

皆様、『J愛読ありがと』や『おした』m（—）m

そして、メタウサ独演会（笑）の『静聴』*静聴* *thankfulness*（○^ -) b

今回判明したのは、束は一人もしくは怜との二人きりではなく、【世界にケンカ売れる軍勢】をちゃっかり用意してるのでありますかね～

幹部は束同様に【世界が面白くない科学者】が多いですが、しっかり戦闘部隊も存在してて…

まだナイショですが…

G A U 先生ありがとうございます（—）

ヒョウガ先生、例のちみつ『』を入れたいのですがどうでしょう？（^—^ :)

さてさて、【H B】は本当に不定期（作者のメンタル状態次第）なので、ネクスト・エピソードがいつになるか分かりませんが、気長にお待ち戴けたら幸いです（○^ -) b

【Extra Episode】 "向を書いていたらいいか迷った時、

皆様、こんにちはー

最近では珍しい時間にアップの暮灘です(^ ^ ;

いや、まさかのまたまた【HIB】アップです(; ^ _ ^ A

とこりか…他の作品の【脳内動画】が回わんね~つーー

なのでサブタイ通りの理由で書き上げたのが、今回のHIB에서도
す(^ _ ^ ;)

嗚呼、これでついに次は【Episode 01】を書くしか無くなつ
たぞつと(汗)

今回のHIBは、これまたサブタイ通りに、原作俗称にそつて
書つなら、

空氣、ちよりこ、チャイナ+千冬様(笑)

の四人をファーチリングしつづけます(o > - ,) b

『HIB版のパロディなので、しゃると黒ウサギは後回しつて事で
(^ _ ^ ;)

暮灘、実は篠以外のヒーロインをまとも…ではなく改造して書くのは初めてで、かなり不安はあります…

最初に書つておきます…みんな、”変”ですっ…！

つこでおバカです

ま、まあバカテス分を混ぜるとこんな感じじかと（へへへ

かなりカオスなヒーロードですが、楽しんで戴ければ幸いです（。

^ - ,) b

【Extra Episode】 "何を書いたらいいか迷った時、

さて、イオリア・シュヘンベルグこと篠ノ之束が、【人類男の娘化計画】を大々的にぶちあげ、男の娘こそ新たな時代のヒロインだと宣言してた頃、本来のインフィニットでストラトスなヒロイン達はと言えば…

篠ノ之束の場合

【E.S学園】の血室にて暢氣に玄米茶を飲んでた筈は、【世界初の男性E.Sパイロット！ しかも三人にも…】の発表を見た瞬間…

「ふはっ！？」

思い切り飲んでいた玄米茶を吹き出した！

「あ、あ、あ、」

筈は画面をフルフル指差しながら、

「明久あ―――つ―――! ?」

立場無エなア一夏・じやなくて、実は篠と明久は顔見知りという枠組みを超えた、性別の壁を超えたような超えないようた【親友】だつた。

といふか、どじぞのヘタレ政府の【要人保護プログラム】とやらのせいでの小学校4年の頃から日本中を転々とさせられてた篠の前に、中1の時

「束ちゃんのお使いだよ」

といいつつひょこり姿を現した少年といふか少女といふか、その中間だつたのが明久だつた。

ちなみに最初に持つてきたのは、【アメリカ名物】と日本語で書かれたシールが貼られた、どう見ても【文明】のカステラの詰合せと、束からのメッセージ・カードだつた。

その束からのメッセージは…

『ほーきちゃん、友達少ないと思つから、アキちゃんと仲良くするんだぴょん』

と、記されていた。

一瞬、篠の心に「お前のせいだらうがあ―――つ―――! ?」といつ殺意じみた感情と同時に、今度会つたら…

(もののつか // // 創つて、絶対にキッネ // // にしてやるつーー。)

と心に誓つたとか誓わないとか…

まあ、それはともかくとして、この寂しがり屋のきよぬーポニテの元に、実際明久はショッチャウ…少なくとも、年に数回は顔を出してたらしい。

例えば、第のアルバムには浜辺で明久（スク水着用）と撮った2シヨット写真とか普通に貼つてあった。

唯一難点をあげるとするなら、一人とも女の子にしか見えないあたりだろうか？

ともかく、友情だか何だかそれっぽい物をこの3年間暖めてきた訳で…

例えば、去年の全国剣道大会…もとい。全国【実戦剣術】中学大会（女子の部）では、

「 」の大会で優勝したら、東ちゃんとボクからプレゼントあるよ～

「

「…? 今日の私は、阿修羅すら凌駕する存在だつーー。」

と、普通の竹刀に加え小太刀サイズの竹刀を持ち出し、【禁断の一
刀流】!!

いや、それだけじゃあきたらず”敵”の脚の親指の付け根を踵で踏んづけ動けなくしてから頭突きかまして脳震盪で倒れたとこに追い討ちの面を入れる（一応、剣術大会なので竹刀じゃないとポイントは入らない）は…

鎧迫り合いでの動きが止まつたとこに敵の膝に足の裏を乗せ、斜め下に踏み抜くよにしてへシ折り崩れる身体に胴を入れたり…

敵の斬撃を身体を捻つて避けると同時にカウンターで膝蹴りを股間に（女の子なのに…）に飛ばして悶絶させて試合続行不可能にさせたり…

まあ、その日の篝の暴れっぷりは阿修羅というより、まさに鬼畜外道だった。

というか対戦相手は肉体面よりメンタル面に傷が残らないか心配である。

ともかく、束が作り明久がファイティングと調整、そしてAIの教育やミズキからの実戦データのダウンロード等々を行なつた【紅椿】を篝は、大量の怪我人と引き換えにゲットした。
死人が出なかつたのは実に幸いである。

初めて【紅椿】を装着した時、

「明久の匂いがする……」

と、ニヘラツと頬を緩ませながら呟いたのは、お約束かはたまた本音か？

さて再び描画を現在に戻そう。

篠がかじりつくように見てたテレビの画面は、ちよび鼻高々の末の演説の真っ最中だつた……

「やうか…そ、うこう」とか……

篠はフツフツフツと田からハイライトを消して笑い、

「キツネ!!!はヤメだ…」

くわつーと括田し、

「そのウサ!!!、ロボート!!!してくればようひーーー。」

……篠の価値観は分からぬが、取り敢えず怒りゲージは上がつたらしい（笑）

「あのバカ姉ーーー！……」れでは明久が世界中の男どもの”夜のヲカズ”になつてしまふではないかっ！……」

…心配するとい、そこ？

「明久をヲカズにして良いのは、この世でこの篠ノ之箒、ただ一人なり…！」

篠ノ之箒…

やつぱり、色んな意味で束の妹だった（汗）

* * * * *

セシリ亞・オルコットの場合

英國某所、オルコット屋敷の庭園、簡易IS演習場

その日、セシリ亞・オルコットはIS【ブルー・ティアーズ】を装

着しての血玉トレ中に、”その放送”を観ていた。

「お嬢様、話題の少年達が…正確には少年×1と”男の娘”×2が、同級生になりそうですね？」

わざわざ情報を修正してくれた幼馴染みにして優秀な専属メイドであるチャエルシー・ブランケットの言葉に、

「ふつちやけ、少年には興味ありませんわ」

そして、高画質モードでEVSに録画した画像…木下秀吉と吉井明久の画像を並べて三次元投影しながら…

「可愛いですわ～」

”ホウ…”と、アンニコイな溜め息をウツトリとした表情でついた。

「なんて愛らしいんでしょう…特にこの超HII-スカのパンチラ娘…たまりませんわ～」

セシリ亞・オルゴット…

実は無類の可愛い物好きだった…！

「ねえ、チャエルシー…わたくし、良いことを思いついた…

わ～」

「激しく嫌な予感はしますが…なんでしょう～」

「せいかく同級生になるのですし、」アキヒサ・ミシイをひひの
メイドにしてやいましょう」

キヤツキヤツとはしゃぐセシリアにチエルシーは深い深い溜め息を
突いて、

「お嬢様、身の丈に合わない欲望は身を滅ぼしますよ?」

「うふふ～【HIS乗りの男の娘メイド】…嗚呼、なんと麗しくも優雅で贅沢な響きなんでしょう」

「聞いたやいねえし」

「わたくし、萌えてきましたわあ～～～つーーー！」

その日、チヨルシーは「このお嬢は一度痛い目見ないと分からぬのでは？」と真剣に思つたという…

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

大陸某所、鈴音の個室にて…

「ハア…ハア…いちかあ…もつと激しくしてえ…」

”へへへ…ぴちや…”

その時、鈴は日課である【一夏とのベッドの中でのバトルを想定したイメージ・トレーニング】の真っ最中であった。

今日の鈴は頗る機嫌がいい。

なにせイキのいい【一夏画像（動画）】の入手に成功したからだ。

最近の【イメトレ用のアイテム】と言えば、年間契約してゐる”ムツツリー二商会”からの定期便：【一夏の盗聴＆盗撮詰合せ】だけだつたから、イマイチ鮮度に欠ける。

今や鳳鈴音にとつて、かつては日常だった【リアルタイム一夏】は、余りにも貴重なのだ。

「こちかあ…ひやう…もつすぐ”生一夏”に会えるよ…ひぐつ…」

”へへへ…ぴちや…”

「こちかあ！ いっぱい孕んであげるから、生でしてえ～～～～！」

「！」

”ビクビクつ！”

”ふしやああ”

絶叫と絶頂、弛緩と快楽と”放水”：

様々な感覺…概ね快楽と称していい感覺…
アンモニア臭をはじめとする様々な体液の匂いに包まれ、その余韻
に身を任せながら鈴音は…

「いやかあ…すきい…もつと、鈴の恥ずかしいとこ見てえ…」

トロンと正氣が快楽に押し潰された視線の先にあるのは、リプレイ
され続ける【会見の一夏の画像だけを選び抜き編集した動画】だ。
いや、それだけでなく鈴音の部屋には、様々な一夏グッズが溢れて
いた。

勿論、愛用の抱き枕は【等身大オールヌード一夏】だ。

ちなみに恥ずかしい染みが凄まじいペースで付着するので頻繁に洗
濯せねばならず、その為に直ぐにボロボロになるので、鈴音の部屋
には1ダースの【一夏抱き枕カバー】が常備されていた。

ムツツリー＝商会は、いつでも顧客のニーズに100%お応えします（—）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

織斑千冬の場合

IS学園、実弾演習場

「あんのバカウサギ——つ——！」

束のトンデモ演説を聞き終わった千冬は、缶ビール1ダースを片手にフライと演習場に一人現れ、ストレス発散に【IS用の銃器】をバカス力撃ちまくつっていた。

標的は勿論、【人間サイズのウサギ】だ。

千冬が荒れるのも当然かもしれない。

只でさえ今年の新入生は専用騎持ちの面倒臭そうなのが多いのに…

「なにが【第三の性】^{ザ・サード・ジェンダー}だつ！－！ フザケんのはウサマリと服だけに
しろつていうんだつ－！－」

”バゴオオオン－！－”

…どうでもいいが、IS用ショットガン【レイン・オブ・サタディ】
を片手撃ちとか、本当にこの人は人間なのだろうか？

きっと、【未来からやつて来た戦闘サイボーグ】とだって、素手で
張り合えるに違ひない…

かくて【H.U学園】の穏やかな日々（？）は過ぎ去り、カオスとい
う言葉では言い表せない”ややこしい日常”が始まろうとしていた
つ－！

【Extra Episode】 "何を書いたらいいか迷った時、

皆様、『J愛読ありがとう』や『おした』m(—)m

やつぱり色々な意味で束の妹な箇…

何かネジが弛いせつしー…

世にも珍しい上口鈴（ちゅうやんぽん氣味）…

そして、ハッピー・トリガーナ千冬姉様…

皆様、如何だつたでしょつか？（^_^；

取り敢えず、【HB】はバカトリオ（明久、秀吉、一夏）+こんな魔改造ヒロインズでお送りする物語です（・_・_・^A

次のエピソードがいつできるか分かりませんが、もしJの設定なり魔改造つぶりなりがお気になつたのなら、これからもお付き合いで下されば幸いです m(—)m

では、またお会いできる事を期待しつつ（o^_^o）b

【Episode01】プロローグ & ついあえず物語は再起動す。

皆様、こんにちわー

本日、病室調整の為に一時的に個室に移動した暮灘です(^ ^ ;

この【IB】も描くのえつらい久しぶりですが、やはりおバカなノリは棄てがたしーという訳で、どうにか再起動を果たしました！！（^ー^；）

たれど、今回のムンマーは..

【Episode01】のプロローグ、…メガツを遊んでます（爆！）

どつかで聞いたことあるようなパン屋が出てきたり、ヤンキー（笑）
ないっくんと秀ちゃんの掛け合いに、いっくんの地味にチート（？）
っぽい肉体、なんかお嬢様キャラっぽい登場のアキちゃんに、裏で
またやらかしてくれるメタウサ…

つてのが序盤(へへ；

中盤は、ISでもバカテスでもないキャラが、何故かヒロインポジみたいな登場をしてみたりして（・^__^A
とこりかこ）の娘つて、某”家族”メインヒロインの『一世』なんじ
や…？（^__^A

終盤…とこりかラストのラストは、久しぶりのメタウサ本体と、またしても【新＆謎のダブル属性キャラ】が出てきます。

実はこのキャラ、詳しくはまだ書けませんがGAU先生の某キャラを公認でお借りした者だつたりします。

GAU先生、Thanksです（—）

とつあえず相変わらずカオスな状況のストーリーですが、久しぶりの【EB】、お楽しみいただけたら幸いです（○^__^）b

【Episode 01】プロローグ "とつあえず物語は再起動す

さあ、埃を払って電源を入れようじゃないか。

そして、システムを再起動させよう。

真新しい物語をつむぐ為に、さ

桜が舞い散る頃に、偶然出会った…

いや、どう考えても意図的に出会ったように仕向けられた”三匹の漢”達…

…

「めぐ。

ショットばかり、表記に違和感ありまくらだわさ（笑）

まあ、織斑一夏は五十歩 + 百歩神拳ぐらい譲つて”漢”でいいとしても、木下秀吉と吉井明久は普通に【男の娘】：

篠ノ之束の定めるところの、男でも女でもない人類の新たな可能性で希望、進化した性【ザ・サーデ・ジョンダー（第三の性）】であるらしく。

なんせ、HSの生みの親である束に言わせれば、

『女は一番くだらない方法にHSを使い、男はそのくだらなさを分かつたいながら手をくださなかつた。どっちも同罪だよね～』

つて事らしく。

まあ、そんなこんなで色々ありまして【束一味（仮称）】の計略謀略イカ娘で、《藍越学園》の篠が《HS学園》に入学してしまつ羽目になつた織斑一夏、木下秀吉、そしてそして我らがヒロイン（？）の吉井明久の三人がありましたとさ

めでたしめでたし…

「うひ、こきなり終わらせよ! としごんじやねーよ! ーーー。」

「一夏… 一体だれに向かつて怒鳴りておるの? 」

「… 強いていひなら、世界の不条理を! 」

一応、中学時代からの一夏の相方である秀ちゃん… 木下秀吉は、怪訝な顔をすると、

「おヌシ… まさかとは思つが【情緒が不安定になるヤバい粉とか錠剤】を常用してゐるのではあるまいか? 」

「こや、そんなんキメてんのが千冬姉にバレた口! も、【お前には生きたまま死すら救済に思える地獄を見せてやひつ。びつだ、嬉しいだりひつ? 】ver2.03】を驗りこそだだからな… 死んでもやらんや! 」

矛盾した発言なのだが、ただ死ぬのと千冬が案内役となる生きたままの地獄巡りとは天地ほど差があるのがよくわかる迷言ではある(笑)

(笑)

さてさて、そんなアホウな会話をしても一夏と秀吉がこるのは、エス学園の校門へと続く桜並木の入口にある【岡崎パン】とこ、中々小洒落たパン屋だ。

どうやらこの店、ただパンを売るだけでなく、テラスのように張り出した場所に丸テーブル・セットが何脚か置いてあり、開店と同時に一種のオープン・カフェとして機能してるようだ。

そして、そんなテーブルの一つに一夏と秀吉は陣取つてているのだった。

それにしても、である…

「おヌシ、相変わらずよく食べるのう~」

と、半ば呆れる秀吉の視線の先には、フランク・ロール、明太フランク、グラタン・パイ、ツナ&タマゴサンドと立て続けに胃袋に収めた一夏が、〆の激辛カレーパンを頬張つてている所だった。

「よく朝からそこまで詰め込めるもんぢやで」

「俺の一日の最低摂取カロリーは、7000～8000kcalだぜ？」

ちなみに一般的な成人男性の平均摂取カロリーは、せいぜい2000～2500kcal程度の物である。

「人の3倍も食らつたそのエネルギーは、一体どこへ流れて行くんだやか」

「俺は筋肉を自分の筋肉で絡ませ締め上げ、今の細身の体形を維持してるからな…パワーは欲しいが、筋肉を肥大させ過ぎると関節の稼働範囲が限られてくるし、動きも鈍る」

一夏はニヤリッと笑い、

「だから、何もしなくても、筋肉を絞り上げ続ける為のカロリーを
使うのさ。締めるのを止めれば、途端に本来の容積を取り戻した筋
繊維が皮膚を破ってスプラッタだぜ？」

と、一夏は宣う。
しかし……である。

「冗談と切り捨てるには、少々証拠が揃い過ぎているのも事実だ。

なんせ、180cmを軽く超える長身ながら、瘦身に見える一夏の
体重は、実は楽勝で100kgを越えている。
そして、そのくせ体脂肪率は5%未満という意味不明の数字を叩き
出してるのだ。

だから、つい秀吉も……

「一夏……おヌシはどうのバス ツト・オリバチャヤ？」

なんてのどかな会話（？）をしてる一人であるが、中々どうして田
立つ雰囲気出しまくりだ。

秀吉は秀吉で、どこからどう見ても男性用の制服を着た”男装の麗
人”改め『男装の美少女』だし、一夏は極限まで絞りこんだ肉体を、
思い切り改造したTJS学園制服で包んでいた。

ちなみにいつくん、どんな改造を施してると言えば……

原作と比べると上着は全体にズボンのベルトが見えるほど丈が短く、また上着のベルトはオミットされている。

ズボンはノーマルより太くルーズなラインで足首までストンと落ちる感じ。

そして、ベルトラインよりウエスト部分が上に伸びる”ハイウエスト”仕様だ。

ヤンキー漫画（笑）が好きな人向きに描写するなら、【短ラン&ハイウエストカン】といついでたちであった。

しかも、龍虎の刺繡^{ナノ・ケアラ}が入ったメタリック・パープルの裏地は、”T.N.K.”^{ツイスト}製の特注防弾防刃仕様ときてる。

思わず『いつの時代の”ヤンキー（米国人の事に非ず）”だよ？』と聞きたくなるセンスではあるが、このセッティングをI.S学園の男子用制服で改めて”デザイン起こすと、やりようによつてはアバンギャルドになり、意外と格好いい事に気が付いた。

それに【短い上着とルーズ・フィットのズボン】を組み合わせるスタイルは、肉弾系の一夏にとつて【動きやすく、いくつかの”技”を出しやすい】という何物にも代えがたいメリットがあつた。

それに意外と武器を隠し易い…というのもあるようだ。

実は一夏、『例の誘拐”未遂”事件』以来、日本政府より護身の為、【帯銃／帯刀許可】が出ていたりするのだが…まあ、その話は詳しく述べず。

総括すると、ストリート・ファイト前提に制服を発注する生徒は、
IHS学園じゃ一夏ぐらうではありつ（笑）

さて、そんなこんなしてるつちに、実は毎時になると学園抜け出した生徒が並ぶ岡崎パンの前に、巨大なりムジンが停車した。

実際、こんなマジコウクジラのような自動車が、物理的に公道を走れるのかカーブ的な意味で大いに疑問ではあるが…まあ、目的地に着いてるのだから曲がれたのだろう。

そして、そのリムジンが停車するなり、中からワカワカと出でてくる完全武装の特殊部隊員。

そんのが周囲を厳戒体制で警戒し、加えて上空には武装ヘリが飛ぶ中、リムジンの奥から降りたのは…

「おはよ 秀ちゃん、いっくん」

春風になびく赤いリボンが巻かれたさらわらのミルクティー・ブロンドの長い髪…

大きくぱりぱりしているナビ、ビーナスややへんとしてる優しげな瞳…

肢体はびこまでも華奢で、特に少し動けばぱんつが丸見えのマイクロ・リーの制服から伸びる、ほつそつとした脚はまさに絶品である。

そして、今にも折れそうな細い首を飾るパンクの飾り石が散りばめられた豪華な大降りの銀の十字架…

そう、ついに我らがヒロイン（笑）、アキちゃんこと吉井明久の「登校であった！」

「明久よ…隨分と物々しいのう？」

すると明久、「あはは…」と少し疲れたように力無く笑い、

「束ちゃんがまたやらかしてくれました（泣）」

そう、数日前に日本政府に突き付けられた束からの要求…それは、『もし、 IIS 学園の入寮前にアキちゃんの身に万が一の事があつたら…関東平野でケンシ ウやラ ウが救世主伝説始めちゃうような時はまさに世紀末的な荒廃した国士にしちゃつぞおー』

「冗談のような要求だが、その「冗談を実現できるのも、冗談を本当にやるともつと面白いと考えるのも篠ノ之束という人物だ。

その辺りの事をよくわきまえてる日本政府は、最大限の努力を払う事を惜しまなかつた…

し・か・し…

実は日本国が保有してる総兵力より、『ミズキヒトリーティ・ラビット（明久の専用 IIS・まだ未登場）』の方が遥かに頼りになる戦力だと分かつていながらやつてるあたり、束はいつも通りタチが悪い。

それはともかく…

そして合流した三人は、桜舞い散る長い長い坂道を登つて逝く…

その先にどんな運命や出会いが待ち構えているのか知らないまま…

しかし…

「あんぱん！」

母親の若い頃そつくりの仕草で坂道の入口でそう呟く、Iリ学園の制服を着た茶色のショートカット&アホ毛の少女に…

「激辛カレーパン」

と、先ほど完食した朝食の〆のメニューを繋げる、横を通りかかった一夏。

「おヌシはいつも唐突にフラグを立てるのぉ~。ちなみに今のワシはジャンボドッグの気分じゃな」

ちなみにジャンボドッグは秀吉の大好物だ。

要するにスペシャル・サイズのホットドッグの事だが、普通のホットドッグ用の細長いソーセージではなく、長く太くて逞しいフランクフルトを挟んであるのが特にいいらしい。

それにホワイトクリーム・ソースをかけて、『大きすぎてお口に入らないよお…』つてぐらい頬張るのが、秀吉曰くイキな食べ方らしい…

「ボクは、パンならやつぱりメロンパンかな？ あの外がカリカリ、中がもふもふなのがいいんだよねえ～」

さすがは明久。

ぐぎみー声（【Episode 00】第3話参照）キャラのお約束をよくわかっている。

きっと、好きな中華まんを聞かれたら『ももまん』と言つてくれる事だろう。

その時は、是非とも春風になびくストレートの髪を、某 音ミクばりのツインテにして、両方の太ももに『コツ』い軍用自動拳銃を吊り下げる欲しいものである。

「あんぱんつ娘、名前は？」

モロに非アメリカ的な意味でヤンキーっぽい一夏にビビりながらも、少女は…

「う、汐……岡崎汐だよ」
おかざき・うしお

「そつか……いい名前だな」

一夏は脈絡なく”ちみつこい位置”にある汐の頭を撫でると、

「ほえつーー?」

驚く汐に一夏は、

「行くぞ汐。急がないとそろそろ遅刻だ」

「う、うんー」

いつの間にか手を握られ、流されるままに一夏に引っ張られて校門を田端す《うーちゃん》であった……

そして、それを……

「え、えつと……」

人類ポカーン計画で見る明久の肩を秀吉はポンと叩き、

「明久、一夏はああいう奴じや。いちいち氣にしてたら身がもたんぞい?」

とにかく、こんな感じで【バカトリオ】のH.S学園初日は始まるの
だった。

* * * * *

同時刻

地球（？）、某所、【たばねタソのひみつきち】

その日、メタル・ウサミミ…メタウサ…通称を装着した美人は、また口クでも
ないこと…
もとい。何やら世界を面白くする手段をまたしても考えついたらし
い。

「やつぱり、アキちゃんだけ《第五世代TIS》持ちつていうのは、不公平だぴょ～ん」

等と呟くと、早速電子的な意味で設計図等を引き始める。

「”たーちゃん”、またインスピレーションわいたんたん?」

背後からかけられた声に、美人は体はそのままメタウサだけを声の方に向けて、

「そりだぴょ～ん 完成したら、”あーたん”に《お使い》頼むかもよ?」

するとウサギの背後から声をかけた人物：

白人と東洋人のハーフっぽい、170cmほども有りそな長身と抜群のスタイルを持つ少女は、

「うじやー 一応、《遊撃將軍》だかんね～。給料分は働くよん

」

と、茶田つ氣たつぱりの敬礼を、ウサギの背中に返すのだった。

新しい未来あしたを目指して…

ゴールは誰も知らない…

ならば…

イカれたステップで答えを探すだけさつ…！

【Episode 01】プロlogue "・とらあえず物語は再起動す

皆様、『じ愛読ありがとう』やござましたm(—)m

そして、本当に更新をお待たせして申し訳ありませんでした(—)

現在進行形の暮灘作品ではもっともカオス(笑)な【HB】、ついに再起動です(・_・)A

何がカオスって、主人公格が男+男の娘×2つて時点でカオスだわ…しかも明久は主人公なのにメイン・ヒロインも兼任できるわ…

何故かISでもバカテスでもないキャラがメインヒロイン・ポジみたいな登場するわ…

一夏は突然フラグ立てるわ…

トドメにGAI先生からお借りしたキャラが【愉快な悪役】っぽい台詞回しで登場するわ…

うん!

我ながら次回以降収集つかのか心配になるぐらいのカオスっぷりだね(○^ - ^)b

と、とりあえず次回アップがいつになるのか激しく未定ですが、またお付き合いいただけたら幸いです m(—_)m

それでは次回、更なるカオスでお会いしましょう(。o^ - ,)b

皆様、こんばんわー

そして、メリークリスマス

病院のベッドの上に、チキンもケーキもプレゼントも可愛い彼女もなく、クリスマスらしさが欠片もない状況でやさぐれてる暮灘です（＾＾；

人生でもベストバウトに入るワースト・イヴだなや（泣）

暗黒な話題はこの辺にして、今回のヒピソードは…

ヒロイン的には汐と、そしてHS正統派ヒロイン（ヒレメンタル・ファイブ・ヒロインズ）の一人が遂に登場します

誰かっていうのは既にサブタイに答えが書いてある臭いです（笑）が、暴走する《友愛（本人談）》に一夏が踏み台になつたりします？？？

そして、意外と秀ちゃんが強キャラだつたりするかも…というか、相変わらずソシコミと秀ちゃんキックが冴え渡ります

今、ふと思つたんですがエレメンタル・ファイブ・ヒロインズって

属性とか付きそうッスね(;^ー^)A

水のセシリア

火の鈴音

風のシャルロット

地のラウラ

篇は…【天の篇】でしょうか?

なんか、ゼオライマ っぽいけど(笑)

自分でも何を書いてるのか分からなくなるぐらいカオスな話ですが、
お楽しみいただけたら幸いです(०^ - ^) b

さてさて織斑一夏、木下秀吉、吉井明久、そして何故か巻き込まれ…正確には、一夏に”無自覚ナンパ”でフラグ・メイクされた《岡崎汐》の四人は、何処までも続くような桜並木の長い坂道を上り、一路【E.S学園】の正門を目指していた。

さて、とりあえず前回からいきなり【メインヒロインのよつな登場】をした岡崎汐ちゃんを、皆さんにも少し紹介しておこう。

身長約150cmで胸のカップは母親を越えてる辺り、ちびきよぬーと言つていい分類。

そして、名前からも判断できるように《岡崎パン（プロローグ参照）》の長女である。

髪質といい髪型といい毛色といいアホ毛といい、まさに若い頃の母親と瓜二つだが、目元が少しだけ父親似なのが、実は本人的に大層気に入つてゐるところ。

ちなみにオトンは高校時代から相思相愛ベタ惚れだったオカソの実家、【古河パン】に転がりこんでそのまま下宿＆バイト生活。

特に波乱もなく卒業し、貯めたバイト料でその後は製パン学校へ進学。

卒業後、一年遅れで高校を卒業したオカソと結婚した。

汐が生まれても暫くは古河パンに三世代同居していたが、汐が小学校に入学する際、古河パンから暖簾分けして貰つて独立した。

ついでに書くと、汐の田下の悩みは、【老いる＆老ける】といつ言葉の存在をガチで無視し続けてる母親だ。

なんせ汐の覚えてる限り、自分が幼稚園の頃と容姿が変わらないよなに見え見える。

只でさえ今でも”歳の近い姉妹”と思われ、かろうじてオカソがお姉ちゃんに見えるつてレベルなのに、これ以上進行したら今度は自分が姉に思われる恐怖感があつた（笑）

ちなみに、オカソもまた自分の母（汐から見ると祖母）に同種の恐怖感を抱いていることを、彼女はまだ知らない。

といふが、長々と生い立ちから現状に至るまで詳細設定があつたりとまるで本当にヒロインのような扱いだが、汐に関する文章全体がネタである事は言つまでもない。

いや、多分ネタだろ？…

大清書

校門に入つてすぐ、岡崎汐は内心で泣きの絶叫をしていた。

なんせ、校門を潜れば、女女女女女女女女女女女女女女つ！！

そんな中で”漢”のいつくんと、”男装”の秀ちゃんはえつらい田立っていた…とこりか、ふっちらけ浮きあくつてこる。

ちなみに完全に溶け込んでるのはアキちゃんなのだが…

『彼女』は別の意味で…つまり可愛い物（者）好き系百合っ娘には、『もつ…たまりませんわ』的な空気を発散していた。

少し古いHゲーを例えに出せば、【エボク】的な空氣と言えば分かりやすいだろつか？

そして、そんな状況の中、第三者的な目線からは一夏に腕を引かれ、噂の『男の娘』^{ザ・カード・ジョンナー}二人を従えてる…ように見えてる汐は、視線の集中砲火を浴びていたのだった。

（わたしは、ただの通りすがりのパン屋の娘なんですってばあ～～
～っ！！）

実際その通りの偶発的シチュエーションで、後ろの一人の男の娘も
従えてるんじやなく、見ず知らずの女生徒の腕を引っ張りズンズン
歩く一夏と同類に思われたくないから少し距離を置いて二人で和や
かに話してるのである。

しかし、周囲の田は決してそうは見ない。
とこうより射るよつた視線で、

『貴重な男と男の娘×2をはべらせてるアンタは何者つーつ』

と、訴えていた。
いやいや、寧ろ詰問していた。

六六六六六六六六六六

しかし、何処の世界にも空氣を読まない…もとい。場の空氣に左右されない強靭な精神力の持ち主というのは存在していて…

砂塵を巻き上げ、時折残像＆残影等も発生させつつ超高速で接近する”アンノウン”有りつ！！

”彼女”は、春風と自らの加速による合成風力で、自慢の（明久の好みに合わせた）ぶつといボニー・テールを後方に長くなびかせ：

「一夏、退けつ！ 邪魔だあ——つ——！」

「>」

「——顔を認めたのか？」とつづく。

何かノリノリで叫ぶ秀吉の言葉通り、そのIIS学園の制服を着こなしたポニーテールの長身少女は『一夏の顔面』を踏み台にして、綺麗なムーンサルトを決めた！

一応、一夏の名誉の為に言つておぐが、一夏が避けられなかつたのは、死角から殺氣無しにオマケに【人外の速度（と、残像＆残影）】で方向と間合ひの読めぬ奇襲接近されたからだ。

それに下手に避ければ、ポニテ少女からは一夏の影で見えなかつた汐に危険が及ぶ可能性があつたしね

それはともかくとして…

「あつあらわあ――――つ――！」

と、雄叫びを上げながらフライング・ボディ・アタックもどきで明久に抱き付くポニテ少女――！――

勿論、明久にはムーンサルトを決めながら飛び込んでくる女の子を受け止められる筋力も体力もないのに、一緒にすつてんじろりん

秀吉の時といい、つぐづぐ押し倒される事に縁があるといつか…押し倒される姿が絵になる男の娘、明久である。

そして、いきなりポニテ少女に踏み台にされ、首が変な方向に曲がつていた一夏は、首を振つて「キリッ」と血前で泣すと、

「「」の声と呪の裏の感触は… まさか、” 篠 ” なのか…？」

その思い出しありもどうよ…と思わなくは無いが、一夏の記憶が正しければ、肝心の” 篠 ” といつなりしひ少女は…

「 明久！ アキヒサ！ あきひさ！ 久しいぞつ！ 全く連絡一つも寄越さず心配させよつてからにつ…！」

ちなみにポニーテ少女、明久の名前を呼ぶ度に唇と言わば頬と言わば瞼と言わば、マウント・ポジションからキスの連打である。

「 「」や 「」や 「」や 「」？ ほ、 ” ほーき ” ちゃん、落ち着いてつてばあ～つ…！ 確かクリスマスも一緒にチキンとケー キ食べたし、初詣と節分は《篠ノ之神社（束と篠の実家）》と一緒に過ごしたよねつ…？ 何故かボクまで、おばさまに巫女服と振袖を着せられたけど…」

至極当然だと思われる。

神主ルックならまだしも、明久が紋付き袴なぞ着てたら、ミスマッチ過ぎてむしろギャグだ。

ちなみに篠の運命も” 原作 ” といつ平行世界から、いい感じに回天してゐる。

要点のみを纏めるなら、明久から【紅椿】を渡された瞬間（” Episode ” を参照）から、篠は自分の身は自分で護

れると【束が主張】して、いつものように日本政府を脅して『要人保護プログラム』を取り下げさせたのだ。

といふか、最愛の妹への度重なる尋問や執拗な監視に、いい加減頭にきていた束は要求を叩き付ける前に国防省と内閣府、更に東京と大阪の証券取引所のサーバを全てシステム・ダウンさせるなんてお茶目をやってのけたのだ。

そう、その束のクラッキングを食らっていた1時間…

日本という国は政治／軍事／経済が完全に麻痺し、もしその瞬間に半島北部や大陸から弾道弾がふつてきたとしても、全く対処できないう状態になっていたのだ。

それが、篠ノ之束という人物の”本気の序ノ口”であった。

実際、その直後に束を除く離散した篠ノ之家は再び篠ノ之神社に集結し、相変わらず監視はある物の平穏な日々を送れるようになっていた。

別の言い方をすれば束に屈伏した（笑）

日本政府の言い分は…

『（相手が）テロリストじゃないから恥ずかしくないモン…』

何故に萌え系？

「何を言ひつゝ！　一日千秋といつ四字熟語があるであらひつゝ。私に
とつて明久がいない日々はとてもつまらなく、そして退屈なのだ…」

「ほーあらやん…」

「だから、私にとつて節分から会えなかつたのは、とても辛い…【
紅椿】とて言葉には出さぬが寂しがつていたぞ」

真摯に明久の瞳を見て語る篠…

しかし、マウントポジショント微妙だが妖しげな動きで明久の細くて華奢な肢体をなぞる指が色々と舌無じにしてる気がする（汗）

「明久…お前は私にとつて、かけがえのない”樂しき日々”の象徴
だ…」

スッゴいい台詞を吐いてる気はするが、女の子同士…具体的にはタテがネコを押し倒しながら口説いてるようになしか見えないのが、難点と言えば難点だ。

いや、まあ…一部の百合系腐女子は瞳を輝かせてるが。

蛇足ながら…

タテやネコの意味が分からぬからつてお父さんやお母さんに聞いちゃダメだぞ。

もし聞いて、万が一にもスラスラと答えられてしまつたら、お父さんやお母さんの過去は、決して詮索してはいけないゾ！
お兄さんとの約束だ

「明久…もう私から離れるな…ずっと側にいろ…」

なんか性別とか台詞とか「逆なんじゃね?」と言いたくなるような、いやこれはこれで合ってるような…

そんな空氣の中、場のに流されかけた明久が、何かこう…ルート決定フラグ的に致命的な事を言う前に、

「こつまで演つてあるの…ちりやー…」

”ぱしおー!”

「せりふー?」

一夏にはお馴染みのツツコミ技、”秀ちゃんキック”がボーテの付け根辺りに炸裂したのだった!

* * * * *

「貴様！ 人の頭にいきなり蹴りを入れるとは… そんなに命がい んのかつ！？」

「ハ〜リと幽鬼のよつて立ち上がり、般若の顔で振り向いた簾の視 線の先にいたのは、

「お、男の娘2号… 貴様かつ…？」

簾、ビツヤヒ秀吉の名前はまだ覚えてないらしい（笑）

「ほーきりやんほーきりやん、2号じゃなくて秀ちゃんの方が元祖 だから」

いや、フォロー。レシッ ハリハセヒジヤ ねーべせと誰もが思つ たといひ…

「明久よ… ヌシはもう少し状況に流されぬよつ、己を律した方が良 いぞい」

と押し倒されたままの明久を見ながら、もつともらしく語る秀吉。

しかし、視線はめぐれあがつたスカートの中の小さな三角形の布切 れに気付かれぬように注がれていた。

「特にその女性、素で”陥としどいろ”を嗅ぎ分ける… 言つなれば、一夏の女版みたいなモンぢや。努々油断するでない」

「失礼な奴だなつ！ 私は一夏ほど取つ替え引つ替えではない！

遙かに一途で誠実だ……。」

「ちよつと待てつー。俺がいつぞいで、そんな女つたらしみたいな事をしたんだよつー?」

いかにも心外とこりつに憤慨する一夏だったが、

「自覚症状が無い分、重症ぢやな

秀吉の言葉に籌は頷む、

「それについてなシンクロ率400%で同意しよつ」

「なぜだあーーーーーーーー?」

汐の手を握りながら苦笑する一夏……つて、まだ離してなかつたんかい。

「やうですつ! 私は一切全く関係ありませんつ……。というか寧ろRPGでいう町人Aとか、からうじて声がついてるけど中の人のがエンディング・クレジットに出ないモブみたいなものなんですねーつー!」

「」

妙にGO! GO! Maniac!な答えを返す汐に、筹と秀吉は一ヒルに笑い、

「「最初はみんなそつぱつんだ(ぱぱぱぱや)」「」

「だからわたしを巻き込まないでくださいつてばあーつ……。わたしは地味で目立たない普通の生徒として、三年間平和に過ごすんだ

からあ——つ——」

汐の涙声の絶叫が、柔らかな春の日差しに飲み込まれてゆく…

しかし、棚ぼたといつより野良犬にでも噛まれたような感じで強制ヒロインポジになつた汐の願いは果たして叶えられるのだろうか？

いや、それ以前に…

（（（（（平和な学生生活をくつたいない、HIS学園をあひやいけ
ねーだる）））））

周囲の心中シンシンクロナイズド・シシ「//」が声にならすに響いたとか
響かなかつたとか…

【エピソード01】第1話 "夫から離れる娘が乳よ、でも

皆様、『J愛読ありがむ』やこましたm(—)m

最近、執筆の時の資料の大切さを改めて身に染みてる暮灘です(へ
^;)

ちょっと一夏の扱いが可哀想(?)な今回のヒピソードは、皆様如何だったでしょうか?(へへへ)

といづか、いきなり汐と篠がエントンカウントしむる(笑)

少し裏設定を暴露してしまうと、一夏もグラッブラー的な意味で強化されます、篠もまた【グランガスト 篠カスタム式】っぽい強化がされます…って、超騎士かいっ!?

それといづのモ、【白式】に『生体蘇生』があるよ、【紅椿】にも『生体強化』があるので設定が…(笑)

ちなみにエントを展開しなくても、身につけてるだけでも有効みたいですね。

【紅椿】自体も、『あれ? 原型はどこに?』ってぐらりこじつてある可能性があるので、お楽しみにしていて貰えたらなあ~と(へ
ーへへ)

次回更新がいつになるか分かりませんが、またお付き合いでいただけたら幸いです(○へへへ)b

皆様、こんばんわー

例え駄作と罵られようが、IBではカオスとギャグをドリルに使い、己のポリシー貫き通す暮灘です（＾＾；

いや、いつも病室ネタだと読者の皆様も飽きるかなーと思いつつ、何となくグレンラガン風に言つてみたくなつて（笑）

さて、今回のエピソードは…

サブタイに答えが分かれますが、前回の武士娘に続き、スコットランド産の青い騎士娘の登場です（＾＾；）

原作と似てるような違つて、微妙な性格になつてますが、読者様の反応が気になるところです（汗）

だけど、原作より割りと腕つぶしある…とか？

とこうくだけりは前半

後半は、【とある女修羅神】の一人舞台です（＾＾；）

とこうか、千冬ねーたま殺り過ぎですたい（笑）

そして、ついに明かされる一夏と千冬の謎に満ちたIB的過去つー！

これを書いた瞬間、作者は…

『もう、ゴールしてもいいよね…？』

と思つたりなんかして（・ゞ—^A

とにかくにも、いつもより余計に力オスを詰め込み、汐と秀吉が
スペースを効かせる最新話！

奪い奪われは、ヒロインの宿命かつ！？

作品は更なる混沌を迎えたりつ――！

生徒会長らしき水色の髪の少女を中心とした2年＆3年生の派手なISフライト・デモンストレーションが取りを飾つた入学式も滞りなく終わり、新入生達は各自の振り分けられた教室へと向かつた：

そして、中心人物達の密集率が半端じゃない1年1組の教室にて…

（嘘だつ…！）

世界の中心…もとい。教室のほぼ中心で、岡崎汐は雛見沢の鉈少女ぱりの心の叫びを上げていた。

まあ…そりゃあそりだらう。

まず、右隣が一夏だ。

それだけでも色々な意味で”致命的”なのに、

（左隣が男の娘2号、その隣がミニスカ姫式で、更に隣が神風百合ポニテ…）

具体的には秀吉、明久、篠が横一列に並んでいた（汗）

しかも…

（真後ろに新入生代表のパッキン・ドリルロールとかいるしい～～
～つ～～）

そのあまつと言えばまありの学園側の仕打ちに、汐は思わず涙目になり、

「せようなら…私の平和な学園生活。こんにちわ、『変姫十無数
～ドキッ！ 変人だらけの非日常 空間～』…オーナー

「いきなり変人呼ばわりとは、『挨拶ちやな？』

机に突つ伏し呟く汐に声をかけたのは、特に耳のいい秀吉だった。

といつも、変姫は無視して良いのか？

ともかく、汐はむくじと顔だけ起き上がり、何かを諦めたような表情で…

「否定できる要素あるのかな？ かな？」

まさに前述の鉛少女風に問い合わせる。

すると秀ちゃんはニヤツつと笑い、

「岡崎よ… オヌシも中々言ひのり？ 気に入つたぞい」

秀吉、まさかのヒロイン（？）略奪フラグだらうか…？

いや、それよりもう一人、【変人】というキーワードに反応した人物が…

「ちょっと目の前の貴女！　その聞くからに妖しげな《変人集団》区分の中に、まさか私も入つていいのではないのでしょうかっ！？」

つい反射的に振り向いた（ついでに振り向いた事に激しく後悔した）汐は、仁王立ちしながら鬪氣を纏わせるパッキン・ドリルに、

「えっと…セビリア・アプリコットさんだっけ？」

”ガン！”

激しく頭を机にぶつけるパッキン・ドリルは、起き上がりながら、

「誰がスペイン南部産のバラ科サクラ属でジャムやシロップ漬けに多様されるフルーツですかっ！… といふか、微妙に字面^{じひん}が合つてるだけに、余計にムカつきますわっ！…」

セビリア　スペイン南部、アンダルシア州の州都

アプリコット 杏子の英語名。ちなみに杏子と読まず”きよ‘うこ”と読んだ人は、きっと作者と同じ『まどマギ』ファンつすよね？ 同志よつ！

「アプリコット・ジャムって作るの簡単な割には、美味しいんだよね～」

と、暢気なリアクションを返したのは《簾の膝の上》にいる明久だつた。

くれぐれも間違わないで欲しいのは、《簾》を”膝の上に乗せた”では断じてないという事だ。

簾は上機嫌に膝に乗せた明久に微笑み。

「きつと明久が作るのだ。美味に違いないだろ？　今度、”私の為”に作ってくれないか？」

「うんっ！　いいよお～　といひで、ほーきちゃん…」

「なんだ？　明久？」

「なんでボク、ほーきちゃんの膝の上で抱っこをねてるんだろ？」

「気にするな、明久。私は気にしないぞ？」

「思いつ切り気になるに決まっていますでしょ？！　神聖な教室を何だと思ひます？！　このメガ・ポーテ・ジャッブ～！」

「こちにこじきなり話を振るな。うつとつじこファッキン・ドリル・ハイハイ～め～～～」

”バチバチバチバチバ——ツ——！”

一対の視線が真正面からぶつかり、日英専用騎持ちの間に刹那の激しい火花が散るつ——！

「ほほ——う……これは中々面白い対戦が見れそうぢやのあ——」

中々に好戦的なコメントを発しながら傍観者を決めこむ秀吉に、

「ど・う・し・て・こ・う・な・つ・た——？——？

我が身の不幸を嘆く汐……

そして、更に火にハイオク・ガソリンをかけるバカ者が約一名……

「なあ、幕もリコも教室でよせよなあ。どうせ殺り合^ハうなら、表で思い切りドンキあえよ」

一夏の言葉に一瞬キョトンとする幕ヒース・アプリコット（仮称）……

「……リコって、誰ですか？」

すると一夏、困惑顔のセビリア杏子（仮称）に、

「いや、アプリコットのアダ名つて”リコ”でねえの？ アプリコ

ツト桜庭のアダ名もり「だつたし」

元ネタの分からない人は、ブロッコリーから発売されてる【ギャラクシー・エンジェル】シリーズを検索してみよう

「だ・か・ら！ 誰がそんな今にもジャムやシロップ漬けになるような名前なんですか… 私の名前は…」

「『セシリア・オルコット』さん…だよね？」

場を収集する為、ぐぎみー的な意味で鈴が鳴るような声で告げたのは…

「英國代表候補で、第3世代騎”ブルーティアーズ”のパイロットさん…で、間違つてない？」

「ええ… その通りですわ」

セシリ亞が頷くと同時にスルリと笄の膝から降りた明久は、そう続けた後に一礼しけつコリと微笑み、

「お会いできて光榮ですよ」

芝居がかつた調子だが、お姉ちゃん達の教育の賜物か？ 明久の仕草には本当にソツが無い。むしろ、優雅かつ愛らしい…という表記ができる辺り、明久の『教育方針』がよく分かる。

そして、その微笑みの直撃を受けたセシリアの心臓は、

”ズッキューーン！！”

初代ガンダムのビーム・ライフルみたいな効果音と同時に射抜かれたつ！！

まさに【戦艦の主砲並の威力】である。
その結果…

”ぎゅむつーー！”

「ほえつ…？」

暮灘作品名物『F.O.H（フロント・オッパイ・ホールド：前乳固め）』をセシリアに極められ…具体的には顔全体をセシリアの乳に押し付けられつつ、逃げられぬようにがつたりホールドされ、そして耳元に息を吹き掛けられるよう…

「ますます気に入りましたわ 貴女、私の物におなりなさい」
貴女、あなた私の物におなりなさい

”かりつ”

「ひゃんつー？」

耳たぶを甘噛みされて、思わず色っぽい声を上げる明久に、つい股間に血液を集中させる一夏。

ついでに頭痛が痛い汐に、ニヤニヤと笑う秀吉。

本来なら秀吉がレスキューに走つてもおかしくないシチュだが、どうも放置していた方が面白い事になりそつなので傍観者を決めこむらしい。

そして、秀吉の読み通り…

”ギイイイーンッ…！”

甲高くも重い、金属同士が激しくぶつかり合つ音が教室に響き渡つたつ…！

「ライリー…貴様の国には、”命を粗末にするな”という教えはないのか？」

とは、いつの間にか朱塗の鞘より抜かれた、堂々たる業物の日本刀を握る筈に…

「ジャップ…よくお聞きなさい。我が英國の貴族は、ネルソンにせ

よドレイクにせよ、元をただせば全て海賊…」

と、いつの間にか手にしていた《クレイモア》…

米軍の使う指向性対人地雷ではなく、その語源となつた【スコットランド高地人】ハイランダーが使つていたという、由緒正しい英國両手剣で、第の必殺の刃を受けるセシリ亞！

“欲しい物は実力で奪い取れ”が、ポリシーですわっ！！

「上等だつ！！ 今日が貴様の命日としれつ！！」

セシリ亞は、明久を背中に隠すように動かし…

「返り討ちにして差し上げますわっ！！」

ただ、セシリ亞の背後に回された状況についていけない明久は、ちやつかり者の秀吉に腕を引かれ、色んな意味で安全な距離まで対比していたりする。

「「ハアアアアア——ツ！！」

武士と騎士の見習い小娘達が互いのエモノに鬪氣を注ぎ、首筋が頭に《必殺の一太刀（ハイパー・オーラ斬り）》を叩き込もうとしていた矢先…

「いい加減、刃を引かんかつ！！ この大バカ者共がア——ツ！！

!

一瞬、誰も何が起きたか分からなかつた。

ただ分かつたのは、叫びと同時に黒い何か……”影”のような何かが
簞とセシリアの間に飛び込んできて、次の瞬間には一人が受け身も
取れず、その場の崩れ落ちていた……

そんな、悪夢のような現実を静かに… だけど、全てを瞳で捉えていた漢がいた。

「 師匠 ！ 徒手空拳技《八勢連瞬掌》、お見事にござりますつ

「『ソレ』は道場ではない。故にお前も”バカ弟子”ではない。『ソレ』の時は私をなんと呼べと言つた？」

あるといつぶん

まるで心の底から惚れた女を見る田で、

「千冬姉」

「一夏」、それでいい。しかし、お前の武の腕ではなく、ただお前の姉だ

と、慈愛に満ちた瞳で一夏を見下ろす千冬…

そこには確かに一人だけの世界があつた。

「フンッ…！」

と、辛うじて動かせる首から上だけ（首から下はまだ痺れて動かせない）で鼻を鳴らす篠。

そう、篠が一夏にイマイチ惚れられなかつた理由…といふか、初恋になる前に想いが砕けた（笑）理由は、これなのだ。

一夏 【千冬至上主義】

千冬 【一夏至上主義】

一夏は千冬を【強くて優しくて格好いい、色んな意味で世界一の姉】だと公言してたし、千冬は千冬で【何というか…一夏は私の者だろ？】と憚らぬ【はづか】…まあ、とにかくそんな関係なのだ。

違う言い方をすれば、【狂犬いっくん】を『従順な仔犬』にまで飼い慣らしてゐる世界でただ一人の女性が、千冬だつた。

そして、この一人にもそれなりにドラマチックなストーリーが存在していた…

要約すれば、千冬はモンド・グロッソを連霸し、その裏で一夏は姉の名譽を守る為に誘拐グループと死に物狂いで戦い、生まれて初めて自分の意思で人を殺し、また自らも深手を負つた…

一夏の危機が知らされたのは大会決勝の後で、表彰式をすっぽかして駆け付けた千冬が、案内役の眼帯銀髪ちみつ娘と見たのは…

返り血を浴びると同時に己も全身から血を流し、意識を失いながらも倒れふす幾多の骸の中で”漢立ち”する一夏の姿だった。

その後の一夏は、出血多量で脳が一時的に酸素不足になつたせいか、暫く【TV版『ガンダムのシロッ』と戦つた後のカミーユ】の如き状態だつたらしい。

実際、一夏は千冬と共に一時的にドイツの軍病院にいた。

一夏が復活したのは、千冬+アルファの献身的介護が起こした奇跡と言つても過言ではないだろ？

『俺、千冬姉の名譽…守れたかな…？』

『…バカ者…』

『これが”漢”といつ者なのか…』

言つておぐが、別に《千冬ルート確定》といつ訳ではない。

千冬に言わせれば、自分は完全に《別枠》扱いらしく…

『師弟であり、姉弟でもある私と一夏の関係…恋愛』とき後天的な絆と比べるべくもないだろ？』

といつのが千冬の主張であり正義だった。

といつあえず、これが織斑千冬という女性であり、一回のブロックヒルデに輝いた世界最強の女性であり…

何より、世界有数のブロコンだったつ…！

既に初日のホームルーム前から、日本刀とクレイモアと鉄拳制裁が乱れ飛ぶこの展開…

ではせつかくなので、彼女のコメントで締めて貢おう。

「夢よ…これは悪夢だわ…目が覚めたら、きっとわたしは暖かいベッドの中で…」

「岡崎、往生際が悪いぞ？ 現実を受け入れれば、それだけ早く楽になれる筈ぢやぞい」

果たして、ストーリーは何処へ流れて行くのか…

それは作者にも判らない（笑）

【Episode 01】第2話 "・クラスメートは女、女、女、漢、

皆様、ご愛読ありがとうございましたm(—)m

魔改造せつしーと魔改造千冬ねーたまは、如何だったでしょうか？
(^_^;)

実はこの二人には何となくコンセプトがあつて…

せつしー 海賊貴族（クロボン風）

千冬 ブラコンな女東方 敗

という仕様です。
ブルティアも中々いじられて…

といづか、後書きを読んで下さる読者様に特別情報開示すると、

【ブルティアのデチューン版がサイゼフイ】

といづ設定があるんですね(^_^;)
正解には、

ブルティア コンセプト騎で妖しげな技術てんこ盛り

サイゼフイ ブルティアの尖り過ぎた部分を削り、量産を前提にし
た高性能試作騎

イメージ的には、グラハム専用フラッグ・カスタムとオーバー・フラッグの関係です（^—^；）

しかし、その現実を知らない某まどかちゃんがいたりして（笑）

そして、微妙に出てきたラウラの影…

人間関係全てがひっちゃかめっちゃかな前代未聞の再構成ストーリー、安定した更新は難しいですが、これからもお付き合い頂ければ幸いです（o^ - , ）b

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1514y/>

IB-インフィニット・バカトリオ-《無限の3バカ烈伝》

2011年12月27日20時53分発行